畫本
東遊
葛飾北斎
完
特別
チ5
3829

特
門 チ5
號 3829
卷

昭和二七年
五月二日
購求

貴

帝國圖書館藏

ちひきまるこのまゝたこのくに
おきふあきひとまゝよにする民といふこと
たゝいひとりのりのこゝろをハさしむ
まいてちゝとなる社奥をこのひとは御代を
しゝぬぶ毒毒をいとひれのうきゝ丁、設を
やまとうこのさとひとやゝ立せるさとひとゝ

[illegible]
老人乃はとらふ[illegible]康衡乃
ほさ[illegible]
いまや大[illegible]
うけの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

も[illegible]
うは[illegible]
[illegible]
[illegible]

清草菴

芝神明宮
春景

萬象新

華溪老漁畫

為善堂	年代の変の沢をまもるあし
自得菴花咲翁	年を経ぬる松を友として
花咲万九	江戸の小岡に出て住ぬる
松壽舘	本くれよりもおくの人の山さと
福草亭	本の形代くるる丹小弓も
佳日菴	山姫も地白の雪代ぬ紅えく
	角大師ふれを去りの梅

上野 大間々 上千載連

法人よりとめとやまとけるたいとも出しくまつ梅左浦　亀長命

そるの日れのゆる出世成このこと体花を　白鷺池住
やり梅多いかに増すり

上野山ちのきとりよりひとれ祝さしや蓮る　梅ちかなる松　夏引糸人

ちしけのたとくくて花とくくの
なちしまは春ふ日ちくしれ里　印杉守

ちるい歯成子等まえ花ぬ梅ちも
梅ヨ　ちふてちふ　ち用さ　柳原川風

ひきんとも花てん柳のひとこてて
一ふ二ふて　のひるえるく　里見峰家

まれおるもかの花て入ちちよ
やふれ花や家の　ちの梅うえ　掛相道行

たちゆヨ白ひちちやちる風ち
遠くはちゆの後まの梅ち馬　斗搔外數

よしまれ妻のおちちり川ちの
清ちも人のちて　ちちん　吾面堂永良

花ち山ちもまれちのくや
こうまよかて花のさくち木　河原砂道

馬成ちの被れ欲ハめぬちちん
ちのめれ　梅ちまちち九　合和　東田舎丁雅

仝

下千載連

馬ゆくふ裏ヨ新の春ちうし
かちまちる　厂のちまてえぬ　由緑有人

いとゝ袖を細き手枕つむ世辺を
ゝもたゆゝぬうくひすのこゑ　貫川厚記

紅梅の白ひも花の浮氏貝
ちるゝうゝの袖とうゝて　茅原細道

耶郷の美世の寿れ行ちの夏
はやちつゝたゝゝ美のこさ　酒月待兼

美ゝふゝ山ちの人この夕ゝ惜成
ゝゝゝてく花ゝ川ちり　若草末繁

谷川の氷ハゝけてゝゝゝく
ちゝゝ上ゝうくひ美の声　問屋馬人

庚蔓酒の破さ夏ちゝゝ美風の
おくゝてうふゝ袖の梅ゝ美　我了軒朝記

あゝゝ山花ゝ美てハ徒ゝ仏
枝ゝゝかゝゝみうけてゝゝん　華山政満

山袖の形ゝ美をゝき
ゝゝゝ美こゝゝくゝゝ梅乃花　紀須直

桟のかゝゝ形ゝ富ゝ美面の
ひゝゝて漂る美柳の竹ゝ　力足踏

花ゝ美ハゝ梅乃咲いて
ちゝやゝ氷ゝてゝ美れ人の筆　鼈甲友次

巨燈ゝ美くゝもつのぬゝゝ
さく梅ゝゝゝ日のあゝ　帳面仲住

あ月ゝ月咲ゝ梅ゝ富川乃
風ゝく袖ゝ佐ゝ白ひ美　知部方頼

美形ゝ美れ氷の美ゝ梅ゝ美成
風のまゝゝ月吹いゝ袖　高貴酒盛

岩佐ゝゝ見えし氷ちゝゝて
ゝゝひつしの美れ川浪　三番波自九

三圍神社

藝者集
鳥居半出大川端
遥指三圍稲荷壇
蘆葉刈来盛洗鯉
蒲焼食盡割長鰻
葛西獅掛太郎皇
晋子句翻百姓肝
向晩舩頭呼不起
屋根舟裏只聞鼾

春風よとけつもるひの梅の
いとゝかぐろう　自團坊

春風の吹矢八的ていけうん
雪よかく咲る　梅丸　一丁羽・狩

朝まぶらめる　福寿れるまま
はるのくれるまちやそうん　山峰窄

菊つを庭ハ志ゆきく　雪乃
移もまけてよき　まゝのに　松梅亭廣九

上野　桐生　萬歳連

こゝろもまゝ自慢のゆ紙乃紫ゑ
霞そゑる　潤因のはけほの　梧桐林長持

帆杉成ねせく寫ハあちよゝ
ゝもはくさの　巻の明われ　紀元九

七

掃除まゝ後ハまつう梅うゝ
えゝ　助の名成もらゝて　四阿峯近

はつさうゝのやさゝよかりそ成
えゝゝ　梅乃　成のさ成うけ　嚴中老九

ゆうゝもゝ寫ハ先ゝ
面　搗のはゝれはけほ乃　紀有安

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝゝたさ　ゝ　ゝ　米里

歌　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
かゝゝのゝ　綱はゝ　ゝ　一瓢亭

ゝゝのゝゝ衣ぬゝゝ
さうゝ　我をゝ　ゝ代の　深糸色芳

ゝかすみ　ゝゝゝ
ゝうめゝさん　四里ゝ　野ゝ　涼窓亭裏風

隅田川
春雪

浅草寺鐘
舁鼾聽
隅田川雪
垂涎看
五老

大門松うちしめの花はなびらの
はけてこうちもよしの乃 麦　綾羽亭織主

上野藤丘

なにはのこうさいも池畑のすゝ田川
何丁となく 花の麦を見る　篠夫越方

さゝのほる初日のあらも千ゝ代
九ゝまつけるまれたるかの 麦　小袖安賣

麦ふるこきぬとこえぬるむゝさゝのの
えゝよ 浦 麦　呑仲住

笛よりも吹初風ようくいすの
ちらけらふてやあく 籔の門　民安清

いるつゝよ花のふれてふ虫の名の
こうまの あつて 麦 弱　若葉千代住

はけさゝのとよむるあの下餌よ 麦
奥 籔はけるふ籔のうくひ 麦　秋永夜

ふちんゝゝ作ゝさはゝのさゝのさみり
見のはけらもはのるはけ干うゝ　真字唐文

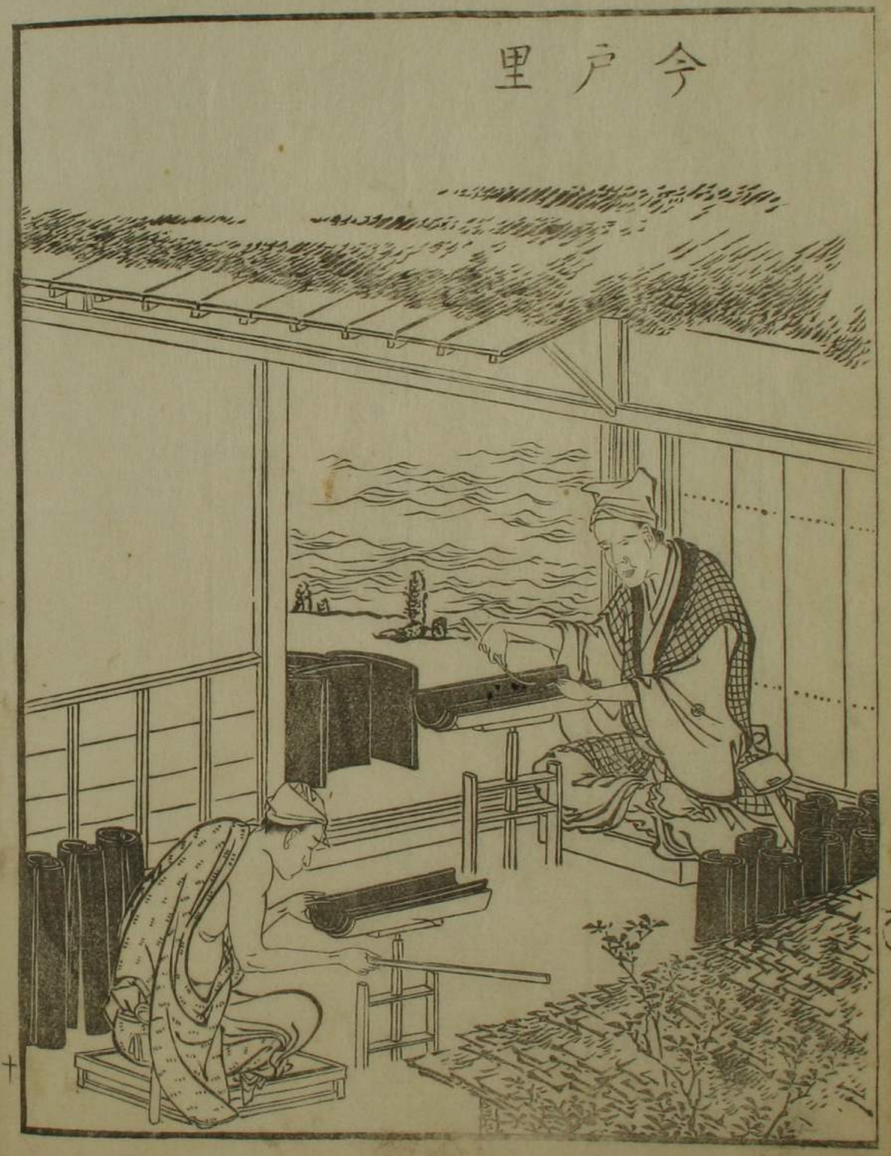
仝　妙義白雲連

今籔の光ゝとゝつのはゝ芽
あゝまよ 松はけるゝみさゝひ　山家猿成

中夜 里も麦やまぬゝんちつの男ゝ
袖の月ゝつ 梅のうゝ 麦　山越成

り麦はけ籔ふあくゝもうゝさゝと
ゝゝ 霞ゝ 関ゝやはゝゝん　山仲住

月ゝも日出ゝく麦ゝこゝ関の
ゝゝう ま 形ゝ ゝゝ 唐　二八安盛



はるかぜの　ふきぬけにけり　うめのはな　やうやく　ほころびぬ

藁研鍔九

出るも　梅の　花やうぐいす

黒生菴仲見

さくらの　ちるとのおやまの　ぬけうめ

そこのたりくる　白魚

上野

夏れ　真富士とけくそのみくこ

くちくち　先くくしやくくん　厚市　成風亭春道

うくもすの　俗世ちくき　神田　卜入堂人並

ふるの　ふる成　夏ハ　般若さくくう

さは　姫のさくや　秘義よ　愛さくくん　仝　木元安元

恵領ふくり　梅のはくくの　那

夏くさくさ　色ますぐ

さけよ　色とよく　隅田川くく　柳　行　境　柳元成

格別よ其ハ色ハ[illegible]のひもゐのく
むすよかさゝの色ともゝ赤　　露秋菴二久人

松風れかよる　新　　則有遊

わ成を[illegible]ふる義の　　小懐

ひ[illegible]よ雑ふいん[illegible]　　寝語軒美隣

花の色ハ[illegible]よ[illegible]やなく　　七日市

下野足利　萬歳連

年ゐと[illegible]や垣根れ[illegible]

ゆむ[illegible]く　　山垣鈴也

[illegible]れ写[illegible]成さくの[illegible]

ちんのかの[illegible]梅よ[illegible]　　呉服堂織輔

又好む[illegible]ハ[illegible]ハ妻風も

ふ[illegible]　　鉞眠舎

其風ゝ[illegible]ます[illegible]も[illegible]

[illegible]ちの[illegible]島れ[illegible]梅　　木公亭

紅成ゐふ[illegible]

[illegible]干[illegible]ひのから[illegible]　　機音高

仝　宇都宮

猪豊や[illegible]の[illegible]

おの[illegible]鶯る新の墨朶芽　　歯朶菴萱根

瓢尊の中より出[illegible]

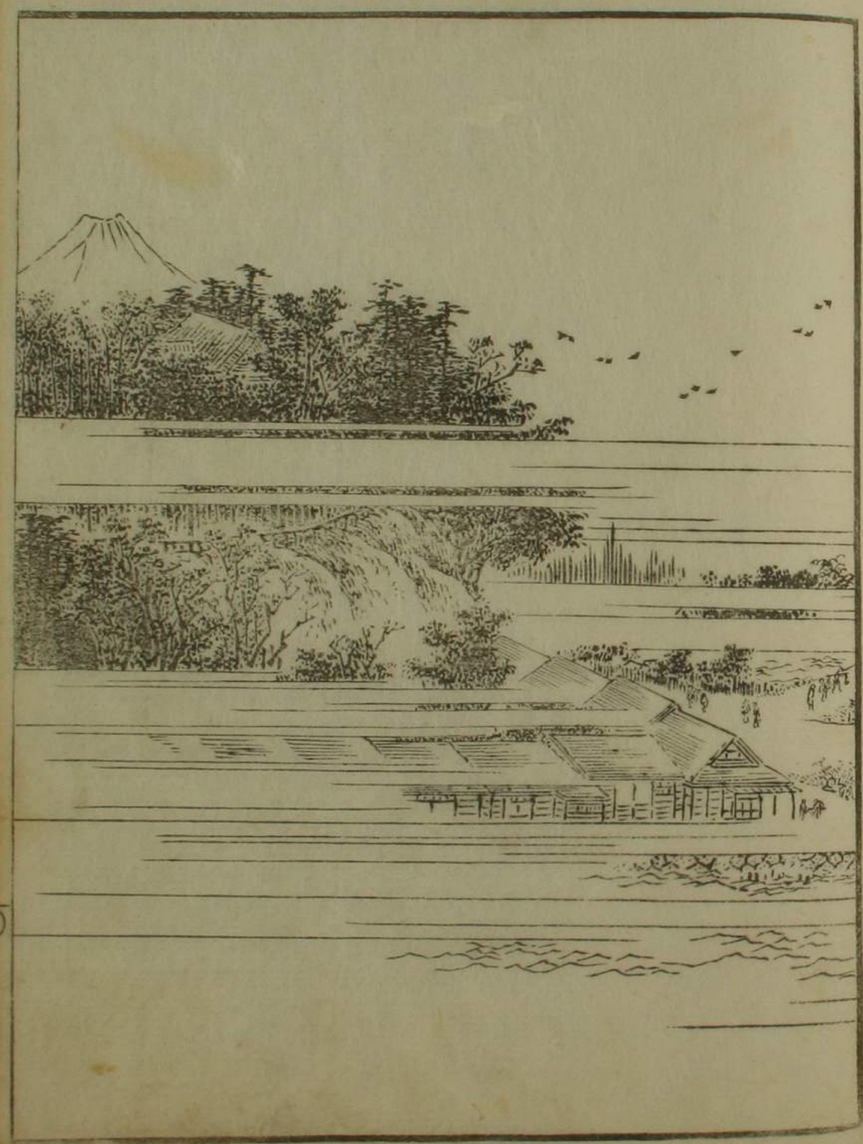
[illegible]れ[illegible]よ妻弱　　佐野舩人

[illegible]めやふ[illegible]梅の

ゐ[illegible]の枝　　鯨百廣

初日新照[illegible]

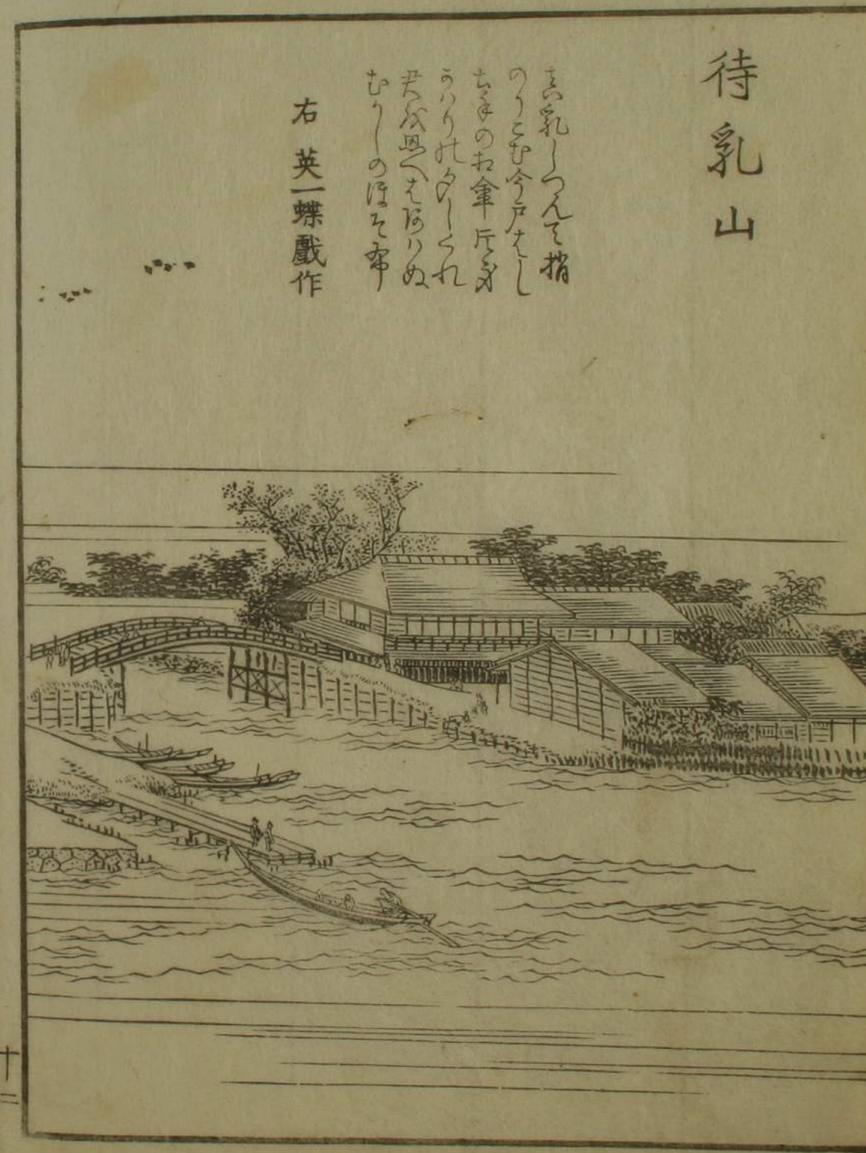
ゆの[illegible]の山　　綿上刎久良



待乳山

まち乳しつんで指
のうこむ今戸たし
ちまのお傘片手多
うつりけ夕しくれ
君成思へたゆりぬ
むしのほそ声

右 英一蝶戲作



雅子のうゑめる姫小雲
ひちやちんち冊れうけ声　櫻清住

ゐさまうん嵩も八重の志ほ風や
扉風う浦の麦れにけふの　烏羽影法師

一筋の言解のうちゑ成麦風て
さそいふて来る萩の掛ゥ香　色黒人

こかうわしふ文一字とぬまして
よゝ麦風る匂ゥうゑての香　奥海堂宮住

下野　枋木

麦ふれそ浦士のうけ地の松ほうう
えるもつうの多やうくらん　哥濱近

常陸　下舘　不二見連

ようゑ家よ家てゝ鶯の鶯も
ちくやむうゝのゐくくくと　蓬志満人

ちる風ゝまうせくゝ今朔八坪の松
雲成うえ而帆とにけてやく　山々良人

麦風ゑかすゝの衣はゝらいて
ふふけと山ゝ殘ふちゝ言　山家猿人

ゐ海さくゝ柳もゝ麦てうゝく
八宇ゝ霞乃うちうけする　辛崎松人

武士の家ゝかさうとさりうう
けるゝるの日ゑ さけふ梅ゝえ　籬竹人

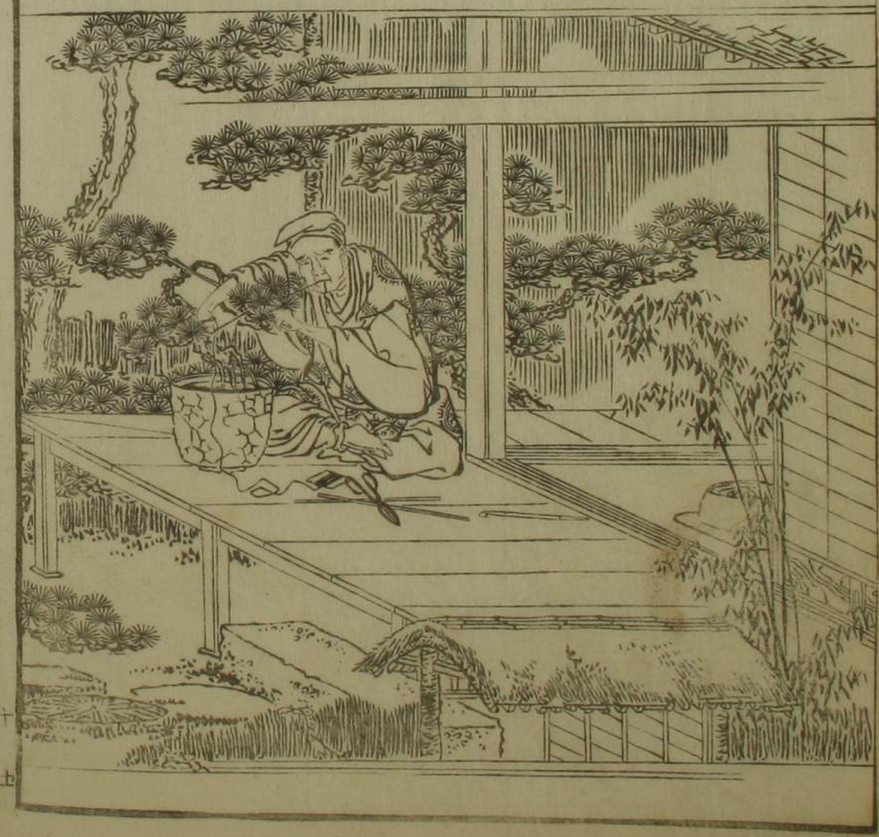
ちやんゑもゝのうれけつゐて
うゝ赤うえゝのさちの遠山　千里菴鞭人

海苔のへんさゝこゝけくたしゐ
うす霞ゝさけるのにけふ乃　青草菴春人

常陸下舘　不二見連

けしの梅も実よりあるる新まるまるまるま

請地
松師



いまくらけ
代の彩
千年の
持松
寿の
松の
石田赤得

常陸土浦

うぐひすよひく〳〵とけさ聞く梅ゝ香　荒金都知丸

霞ゝそつと霞る梅ゝ香

雪とけてうるむもとゝゝ

ほゝゝ笑ふ　はるの山〳〵　板貫

さくらの花辺よぬく〳〵ぬくみて

うぐひすのみさる春れひ　谷川元末

仝

紫れ　霞ぬの山もかすみて　下詠　荒川亭貴達

おれ　色なる衣のうさ稀ゝ

春祢の糸ゝうぬて初春ゝ　笠同　不竜軒跡頼

ようゝうぐひすてぬく春のうゝむゝ

陸奥　三春

雲ゐまゝのゆゝ〳〵やいさもん

ゝゝゝ世辺の雪花毛の春　世道愚也

春ゐれふゝよまゝゝゝ

うめの花　笠　柳ゝ之の　梅香高記

ゐのめ水さうれもい〳〵ゝの

ゝゝゝ成ゝゝ花の下うけ　百草菴成丈

やまゝふゝゝうゝ〳〵ゝの

ゝゝよれゝゝつのゐのけり春　三津玉磨

うれとうのゝ笠ゐ〳〵ゝれ

野笠ゝまゝゝの　ゝれ　駒　桂心亭字満喜

ゝゝう山　春ハゝゐのまゝ

春のゐ　ゝ　穂ゝ　ゝ　ほ　烟草亭呑好

牛島　中田屋

おのつゝ川をの柳のもとゝ
ゆもゝゝとの色をまさりぬ　千里春風

かゆ杖よりふる雨のうゝ
其風のまやえたゝゝ　一亭士師保

陸奥三春

其の野の雉ゝ成けらゝ子と母子
うゝゝもなつぶ　さゝをゝちゝ　印版證人

いさゝつんのちゆハけゝゝ
花ゝちゝけをゝゝえゆ　浮風菴洞寝

糸車けめゝ成ハゆゆ乃
うゝゝもほゝくゝ川　出ゝゝし　木間亭希影

仙人のすゝめゝ山を縫りぬ
かゝゝみの衣　今朝ハゝゝ　浅香山近記

宮人も色衣ぬぎ捨て小松ひくなり　春光菴勝海

ふりうれて繁くうゑし小松やさしさの柳　三巡帯丈

めよとほのかの柳　居草樓兼保

きはやうぬ丹生の浦辺も春柳乃

妻ハひとしほ長く

ふりつくまよハこそいらるる

花も春柳やうやく覚えそ　一瓢亭九寝

陸奥　岩城

ふりさけてのさとしこそ揺る花

そつとふけ妻の山風　甘露庵道遠

きはまさハ春花の第根山

めるるる　かりる　春草のいろ　夢中坊

ふりさけ弓矢立の秋の山乃月

二筋　ゑきち　ひく　嘉　う郡　山手鹿守

仝　白川　金花連

いろいろの春きるる子供もきの春守

花ゑる出さる　春の呼　夷國人

山里ハ春ハ　ゑ　ハ　ゑ　乃

ゑる　春成　ゑ　春　孫や子　萩永持

さはひえの庇懐脂　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　野辺花守

川むきふ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

川岸の春ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

ゑやのうけ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　白奥乃舟　龍門庵成

梅屋鋪

うすゝきひとを新堀の つらさに
今朝いこゑ なくなくけてをちる　山滝住

磯ちかき 浪よりかけて 柳
ちりくる 浪よりかけて 柳　玉子丸記

那川やはた干の磯もさくら貝
かとつゝ せゝらぬ 奥方　平山道

江戸の妻ふりや 紙波の 書も
くもゝさしよ 海のけはの　紀康丸

寄こゝろのよきをふる 蒲団より
やゝゝゝ みふる 妻 ふるの 高　智袋菴有武

陸奥須加川

年風ふけとその 寄も留の一曲や
ひゝゝ 梅よ 何とふゝ ひゝす　平方菴早樹

かゝゝ 弧の ちゝ 新ふと せゝ 学ろ
初 寄 成 さゝ ゝ ちゝの 妻 ゝゝ　藥師堂門住

妻ちふふゝ 草の 寄よ ちゝ 山の よし
ふゝ の草 とひき ちゝ めゝ ちゝ　法螺福音

老松や 山の 獨丹も 孫れよ の
くゝ ちゝ 川 妻 うゝ ゝ 邨　志松菓

亭 とよむ 賞ふ ゝゝ 寄ちゝ て
さゝ ゝ ちゝ ひゝる 梅よ 蒔く 写　山上亭

よちふ ゝゝ ふ 成 ゝ 新紙よふきの ゝ
ゝ みて 変る 冊 成の 家つと　幾世菴久門

ふ成 ゝ て 寄 乃 草の 一 ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ けて ひく 角 岡川　玉川亭友呼

神馬炉袖よ匂ひとゝ
そひ〻ちゝを高の志ゝ　梅　峯壺亭藏人

陸奥湯原

石川よ石ういゝ志りかゝゝの
いとゆゝ汐のひいゝ風　京　道閑齊止金

さは姫のひくゝとゝえゝ三味せんの
糸ゝ柳の枝もゝゝゝゝ　螺吹人

佐保姫のおゝゝは花ぬ志ゝ
うゝゝ志めや　山のこゝゝ　一笑得成

相根成つくゝゝゝゝゝゝ盃の
ゝゝゝく柳よゝ多ゝうゝ　初夏　碁經石盛

ゝゝゝゝの待乳の山のゝゝ
高ハいゝゝゝけゝく　坂守端九

ひ志ゝゝゝゝゝゝゝゝみ
ゝゝゝゝうゝゝゝゝゝ　龍岳亭苔成

仝　會津　盤桐連

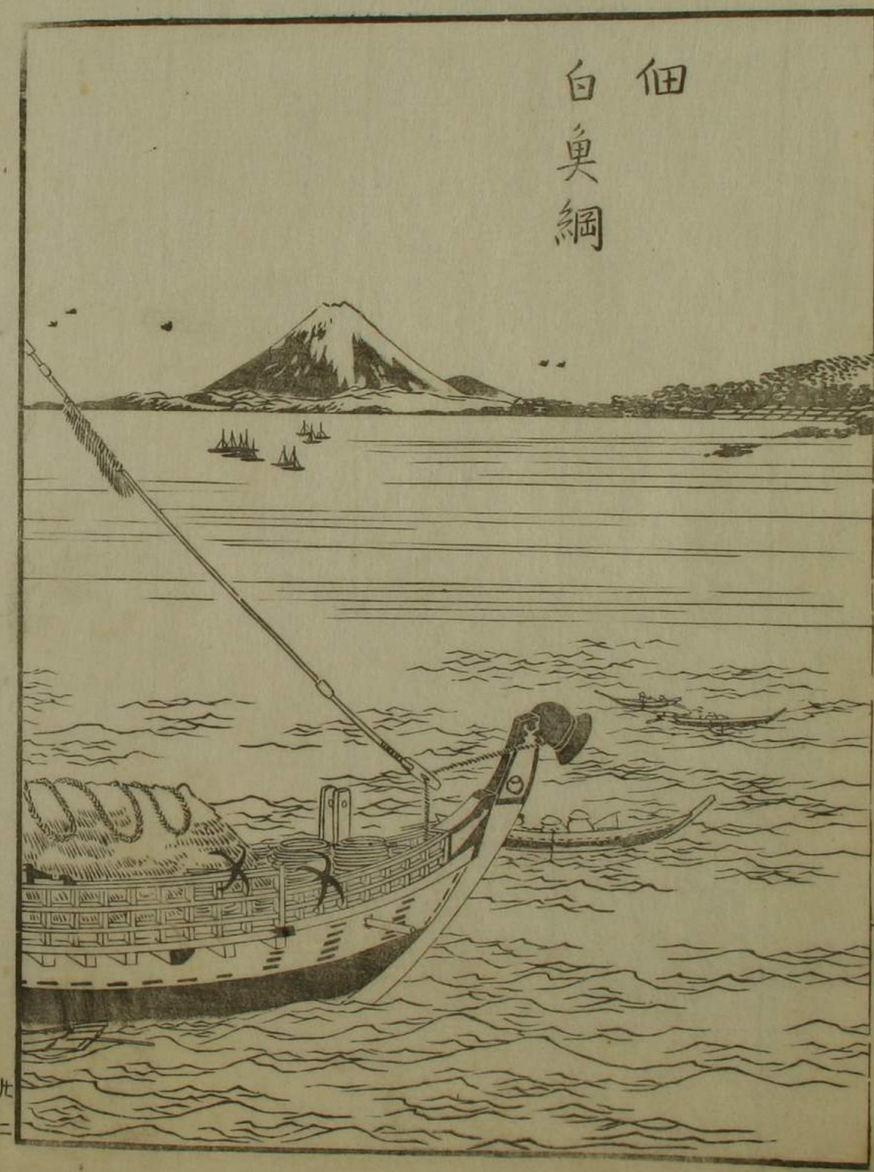
谷陰の底乃泥ゝ　ゆ稀て
おのゝゝと志成さゝゝ　鶯　草野菴住

たゝゝゝ水も峯ハ花やゝゝ　初夏の
山茶よこゝ成のめ　上下　天秤分銅

ゝゝ高　山ゝゝ里ゝ　遠めゝ
梅や　志成　ひさゝせゝゝ　綿積廣記

虎の尾ハ志ゝ　柳も　夏風よ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　七津藏満

蒼成て花のかゝめとゝゝゝ　梅の
ゝゝゝゝゝゝく色ゝ　鈴繋撰主


佃
白魚網

うち出る
月ハ世界の
洪施海
玉のやうなる
雲波
たゝんぬく
平井ト養

山風吹出せて
琴葉奈磨

花戯永人

桃負生

田島
月合廣九

仝
阿部茶器九

方寸齊長磨

陸奥白川

養老菴樽成

雪木菴宿成

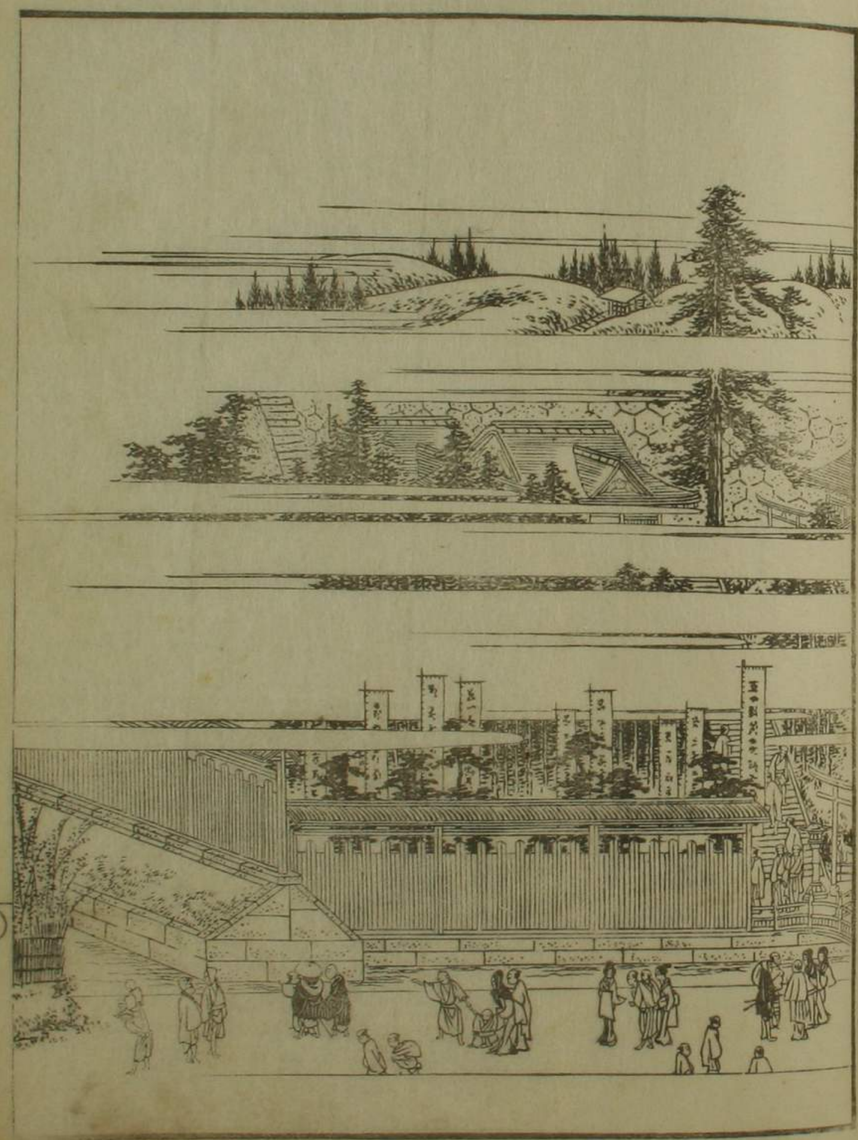
明野兼成

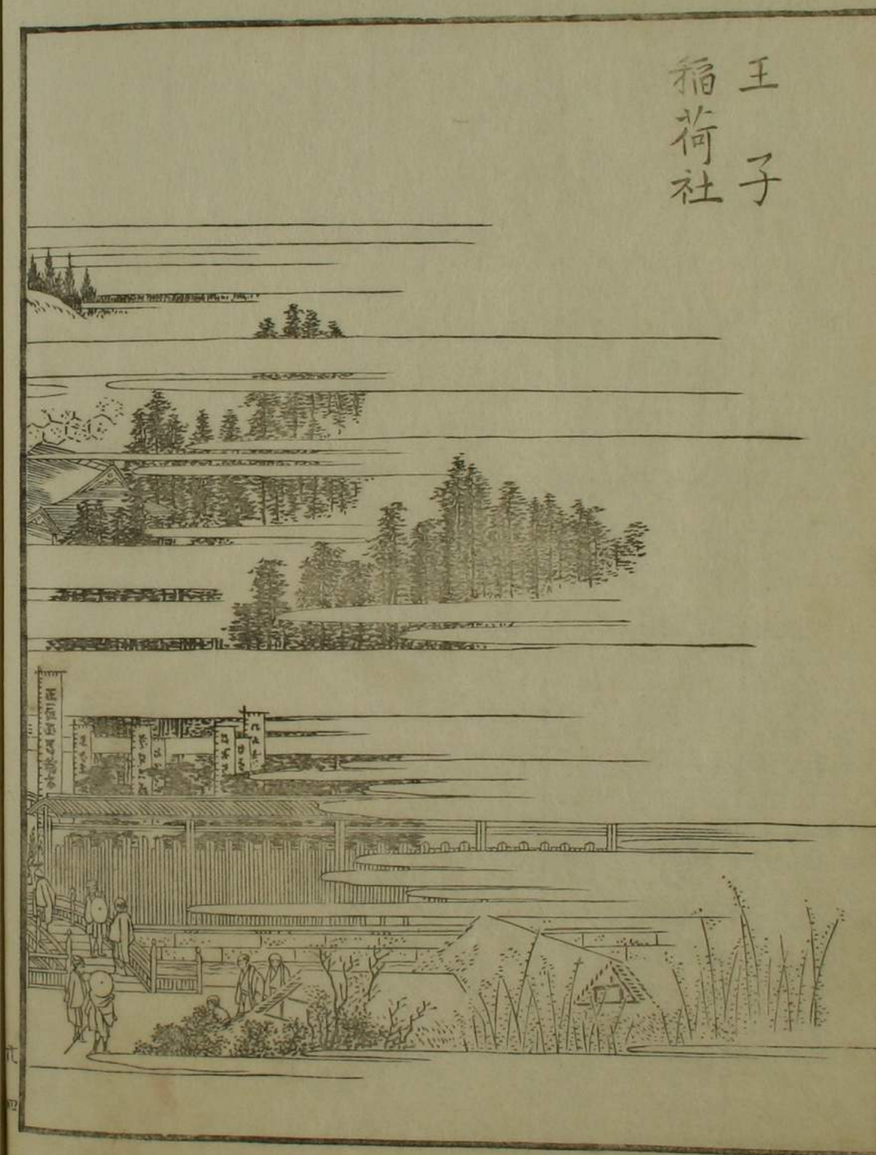
紺井仲成

筆屋安墨

仝

来折




王子
稲荷社

咲そろふ花のこゝろ〳〵よろひとる〳〵の桃もおもふらん　上水下見

出羽　米澤

初雪に〳〵ゝの撃成打ふり　俵藏積
うつ紙　続く　歌く　柳

君が代をいのく扇の天地を　千里道則
ひうつのけさ其ハさるうら

其ふるく巣よりうりれ新　二季和足
さ〳〵ふ　其の其〳〵さうう

古ゝもさの〳〵すゝ吉の　山邊深藪
まりよ之ゝたう　其ハまるちう

越後

むゝさまれ扇の衣　其きぬと
四方山姫の扇よ　笠卅躬
いのゝ如ゝ〳〵水　越智有芳
塚ゝや巻れ　柳の
毋之の文ゝ〳〵つと名のたちて　雪降菴養亀
ひゝよ志〳〵ゝ之と　蛍

越中富山　圓月連

ゝゝ出〳〵て其なうきはゝ　福部真留九
さえぬまうめ乃　柳の糸

手今の其よ花さく　梅ゝえも　伴厚九
り〳〵其　梅の一二アん　ら

はるゝふを梅の白いやうくむ　仲吉九
老さゝ人も　汐ゝかゝ

王子海老屋

松平の[illegible]門[illegible]
[illegible]代の[illegible]　葭原鯉風

いと[illegible]力の[illegible]
[illegible]　熊友道連

永き[illegible]代[illegible]
[illegible]　常盤木勝良

こと[illegible]法人の
口[illegible]　斧音良

色[illegible]の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]　竹内鈴芽

一[illegible]
[illegible]　三井鐘守

越中冨山　嘯花連

[illegible]　赤松亭如羊

[illegible]　一竜軒際九

[illegible]　福曳綱持

[illegible]　田原下澄

[illegible]　外山花盛

[illegible]　豊年行

[illegible]　[illegible]波根岑頼

ちてとゝ蓑ゝも似ゝやまの月
つい冬ゝ寒ゝ柳のえゝ　記録齊

まゝ川や江戸の恵方のうゝの時分ゝ寅ゝ卯　茅原菴秋風

下總佐倉　花見連

まゝ風ゝ松もちゝつゝ芳
ゝいゝめうえの曲の毛氏　萬願寺入道滝吞

可もゝ子れゝりすゝゝ梅園ゝ
ゝゝさゝをいゝさゝゝゝ　蘭竹舍

牛ゝ河ゝぬ鼻成通しゝゝ雪を
ひうゝ出ゝ寒ゝ梅ゝかゝゝゝ　水灑菴板面

風よせぬ梅うかべる水の春をめよ
ゝえよくうゝ　花のうくひす　印幡浦浪

まえくとまく　鶯の　ねゝきる
ほゝゝ　秋寺屋の　梅れさゝ　言　千代折鶴

梅う香の　くもりよ　白ゝ　春さゝ　み
きくもうふゝ　ぎうくゝの　ふすま乃　声　有まゝ　成

学ゝゝゝこゝろゝゝと　紙の　うゝ
すゝむいつゝの　まれ　かさを　え　鶴友芳

のこゝ　まく　ゝゝとひろ　まる　夏を　ゝの
庭　月　下のうめう　かん　さん　松虫音澄

うゝゝふゝぬ　りの　ゝゝ　え　て　梅　ち　う
夏　ゝ　成　の　ゝゝ　神　れ　う　て　ま　音簾舎透守

書よ　白ゝ　まゝよ　ふ　ゝ　ハ　ち　う　果　乃
ゝれ　ゝゝ　ゝ　ゝ　れ　梅　の　間　垣　鼻下守

こゝろ　ふ　さ　て　お　く　ゝ　白　ひ　の　梅　う　か　ゆ　ゝ
ゆ　ゝ　ひ　や　の　ち　ち　う　く　ま　く　鼻下主

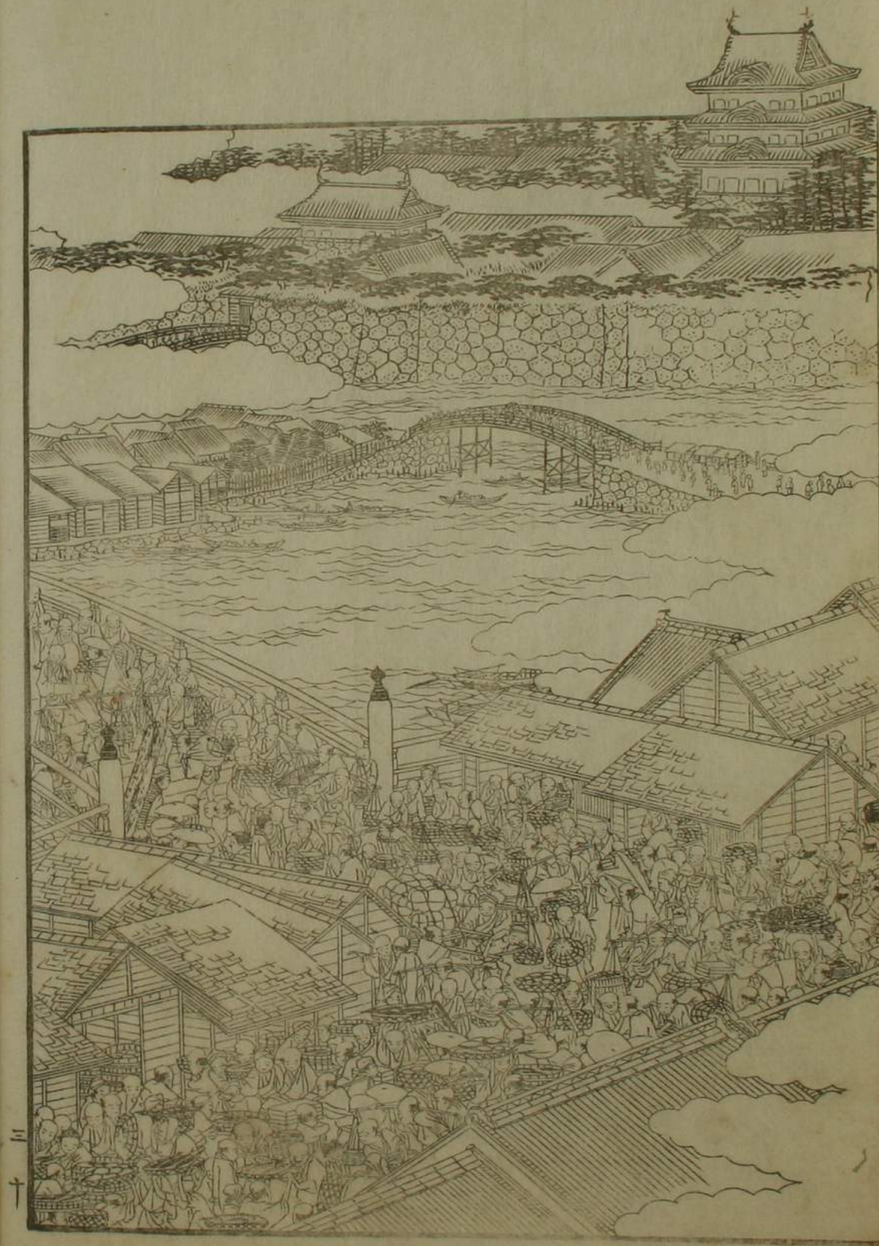
ま　ち　く　の　れ　の　ち　ゝ　梅　素　ア　う　ゝ
白　ひ　乃　か　よ　ゝ　国　を　う　ち　ち　さ　唯笑舎下風

ゝゝ　さ　ま　ち　ち　こ　て　ち　お　ひ　え　の　つ　ひ　ち　ま
ち　ゝ　ひ　て　ま　う　る　梅　れ　こ　ち　う　ま　櫻下堂壽歴

安房那古　松風連

猿猴の三十一ゝ　上世房國
さゝ　さゝ　の　ゝ　の　ゝ　ま　ち　ち　て
我門乃松とゝゝゝ　唐和足
ところすゝよゝ　禍の神く

日本橋



駿河

梅咲くまでつけのうの花ひくけとよまるる宿れる人　園李亭春満

うゑ人のまの仙成しまでえん山猫も三年まぬけされる花　日蓮華山人

甲斐府中

色よりも匂ひふかき梅ゑ八ばくむよりなのみる庭の神垣　歌行亭合方

まき柳のめ成ゑ水ねむるのもなりひくくのもあり　山本里近

ぬるとも君ゐるあるふる郡よつなんゑくの花茅八　千代けめ

なを柳の糸れ手猫よ梅のもち
まゑ成うゑうゑかけるまゑ弱　五遊亭梦龍

学れ者とさうめしまゑ梅うえの
よほひみ人のなりもふるふる　大津鬼面

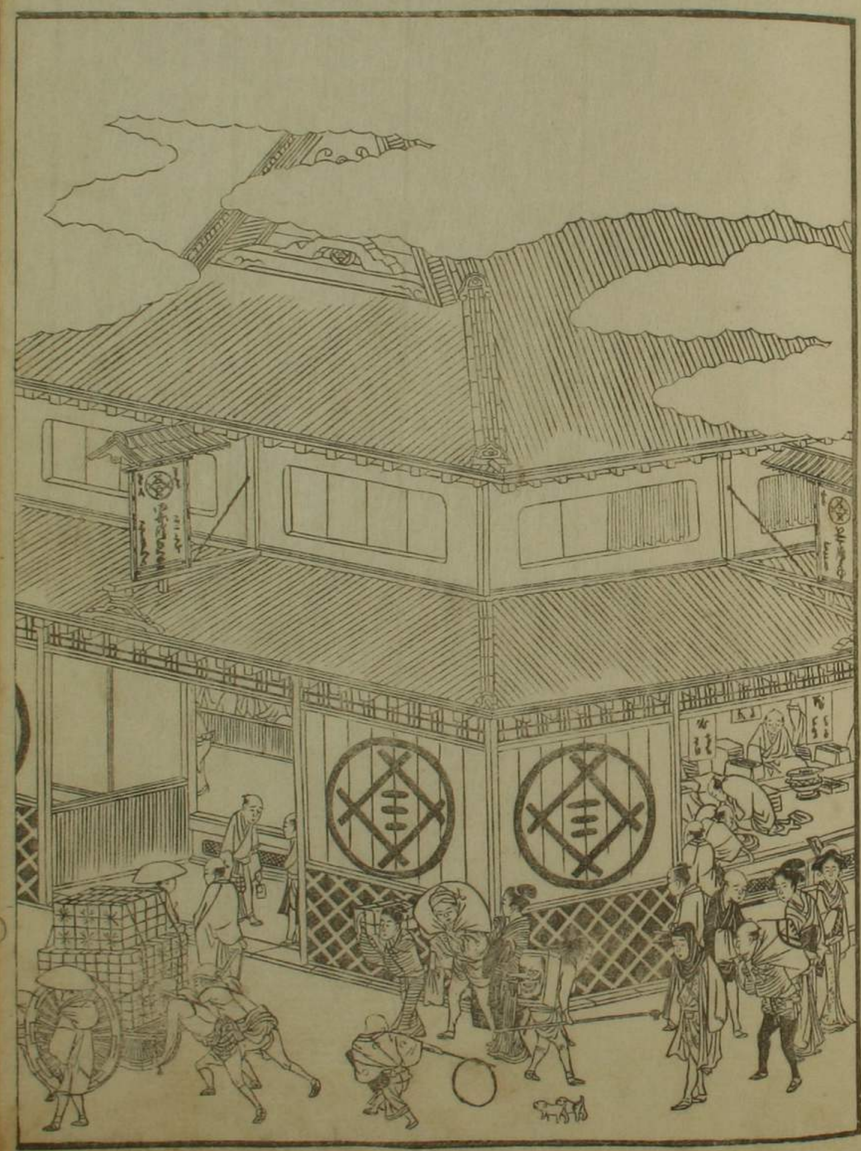
まうまの帽子もぬるゑ花蒙茅
つなるまハまるまうのまゑ　真垣幾久九

んなりまを垣のなりるこゑゑ
まちふけよ梅句ゑ子絵　五面堂成益

風情よまゑれと山の柳まる
いるもやまる求西のぬまて　名満倉及金

とまるうし代まゑ蔦の御植も
菊斎侍まうまるる梅の馬　裏富士見鷹

中るまうめまうぬまる花
ちめる一枝とまてまのの　宿穂町



駿河町
越後屋

梅咲く我袖垣のうつり香
おもてはひるまき名ゝ[illegible]　甲山亭

ゝ柳けめらゝ返入て
ゝなのはゝ[illegible]ぬけて写形　心安丸

[illegible]ていゝ[illegible]ら菊の[illegible]
はゝてもゝ[illegible]ゝ[illegible]　巴曲亭桃李

かゝゝきこ世の[illegible]おいはやせ馬も
[illegible]ゝ[illegible]ちなら　柳亭

遠江掛川橋連

ゝしの坂ゝゝのと[illegible]
梅さく[illegible]ゝ[illegible]つら[illegible]　花栗

[illegible]人の[illegible]
[illegible]ゝの衣きゝ[illegible]　田舎住人

ゝみ山[illegible]の[illegible]
はゝけて[illegible]ゝ梅ゝ初冠士　阿吟

ゝゝゝゝはゝ[illegible]
[illegible]ゝゝゝはおゝゝゝ梅の花　虎珀千里成

[illegible]
[illegible]ゝ梅ゝ[illegible]の
[illegible]ゝ庭の[illegible]　蜜甘桂子持撞人

三河赤阪八橋連

[illegible]顔も[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　晩道遠

さの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
新妻のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　左大便垂益

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俳諧のいさうとたるのうさ砂
うち解るまもなき流れよ　芦原儀風

面
面をふりて立出るうぐひす
おぼろ月ほのくかめをもみき　最事也

ふきめ山
七重八重ゝ霞のうふきめ山
うつくしの子成うえの花嫁　友達仲好

隣江亭木蘭
新年すゝ河原の朔かゝみ
ゝゝゝゝ山もゝ巻よゝうめう

百番亭外也
玄井ゝ幾多龍の年とけゝゝ
ひとゝゝつゝよゝうゝゝ

三河　擣衣連

日の新のひゝりまたゝまゝ
ゝゝゝゝゝき代の妻やゝゝん　月埜平顔

ゝゝやゝふて山ハ紅ふ百葉
ゝゝゝ出ゝゝゝゝのゝゝゝん　津井米満

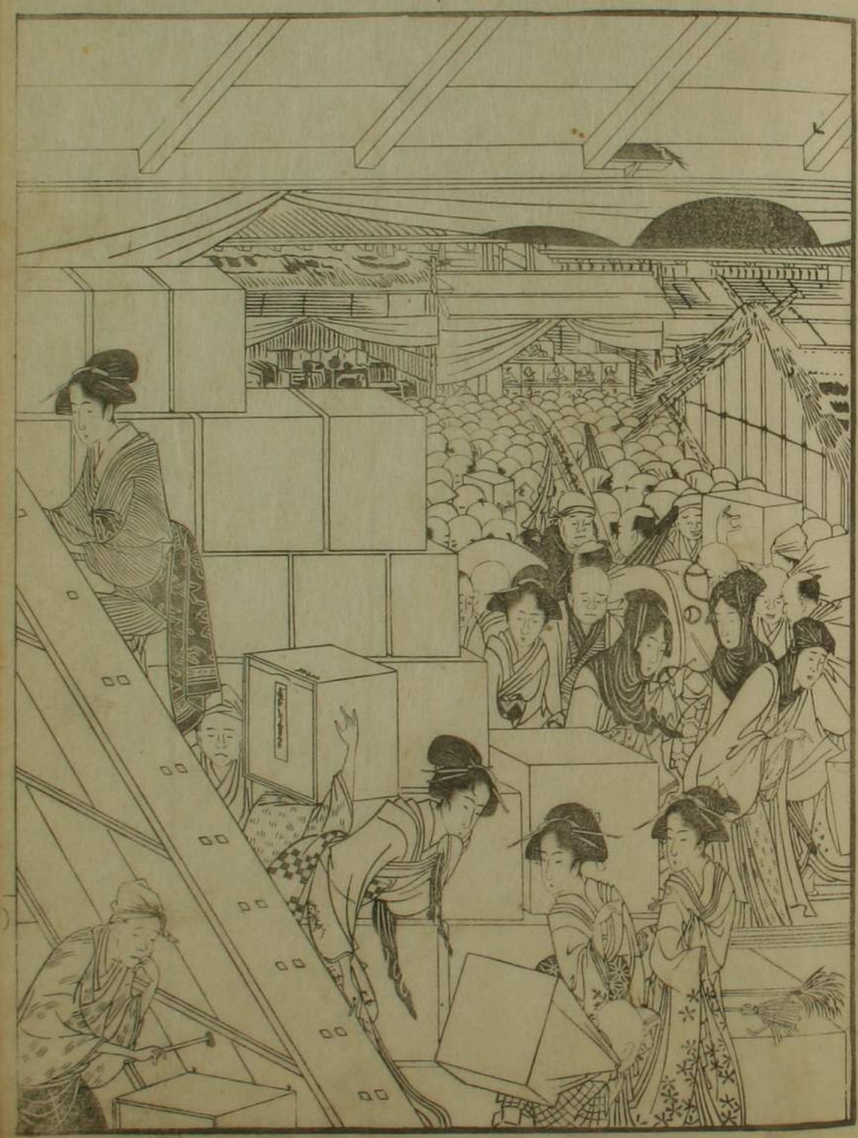
ゝゝゝゝゝの梅ゝかんゝゝゝゝ
踊る羽衣やひるゝゝゝん　芋皮見珍

やゝゝゝけゝゝの梅
蕚ゝる宿のかゝゝゝゝ　分亮舎台ト

梅ふ先風のゝけゝる梅ゝ
ゝゝゝゝゝ紀伊乃ゝゝ　岡崎楼如露子

試ゝ笹の梅ゝ
まつゝゝゝゝゝ一ゝん　樽売呑人

ゝゝゝゝゝ封めゝけハこゝゝの
手紙とゝつゝ　遠近飲常



十軒店
雛市

垣元帯磨

福部音也

濵邊浦人

貳三倍行安

下手壽喜成

蟹手八橋

闇路行兼

荻里花耕

旭之影形

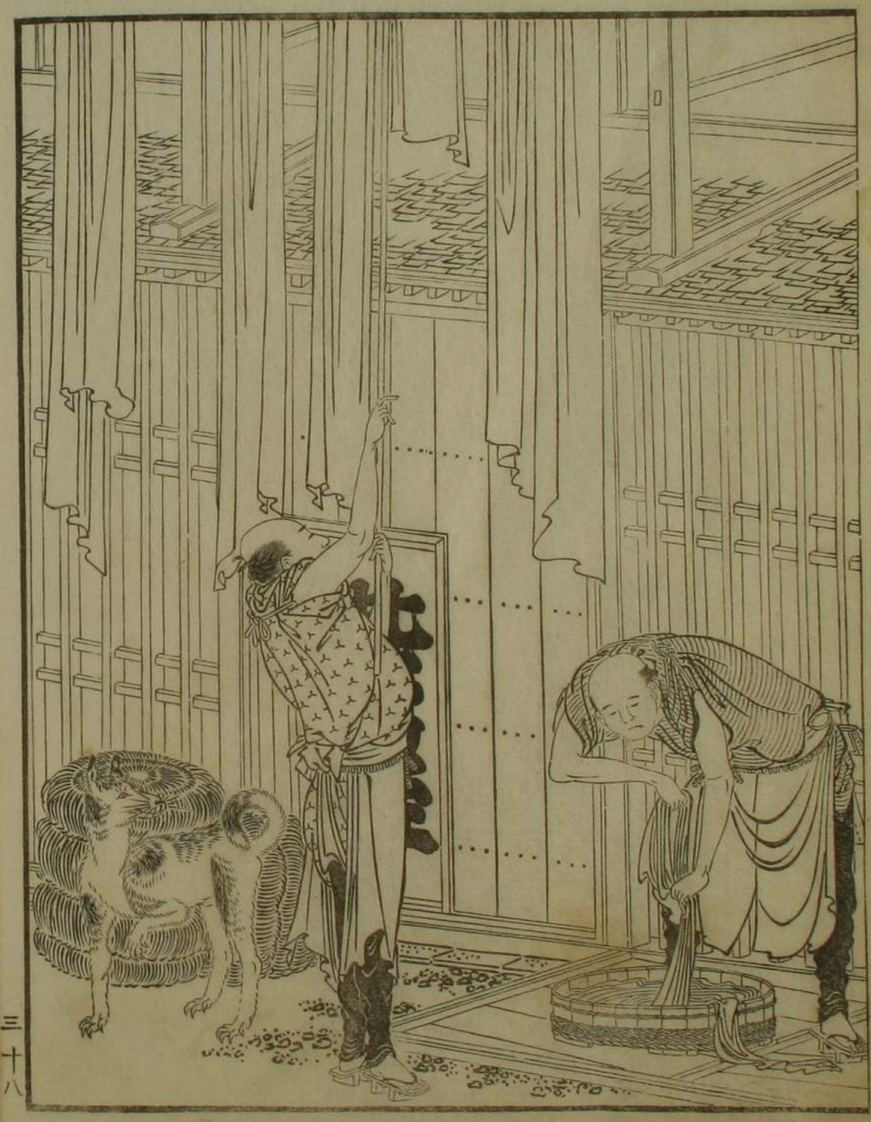
清水草主

板之程能兼

平一面

先小路仲乗

垢付衣紋



これをうれしがるもめでたん武蔵野の
口戸紫草の露をめてを

文鎮醫師九

風の音に柳のまゆ籾うきたれぬ
けつるうちしし姿ちふまを

瑞鳥園敦九

羽書いも利口に夷のつくくるを
やあ花の色うる花へりあけて

左開泥馬

ちうく雪とミゆる雪ちるれ七ちうく武
多雪ふ子ふもかきうけてつむ

橘黄成

つはをうの枕草紙とあけぬれて
紫たちし夷れにきかの

橋太人

うゑ法けうく枝つうちれハ夷れ
ま川に奥へ通る梅うの香

至亭業振孝當

私をうてはこ風うけし梅うえ乃
うをうのつくハ法う独う浦

向柳亭葵朝

まつち山霧ふかたる　夏寺哉　花藏寺人
うゑよおいつく名こそうはなし

春風に霞乃袋やきまめくん
さほれて乃ゆ乃ハちゆ山　波上則速

つまんとて夏ハたんその巌まで
引いさふし弾　撥れ人　浦打古則

ねしこそやよむくんらくと
ふ　誌のうゑ合せ　化樂菴

横花ひらけうゑ風をそよ吹うゑも　賞てうれのし　豊橋欄干坊

まられ名のあつまひくく梅の花
風のくゑわや白いよいい　邉仁之兀子

出つ峯出る月雲の舞雀
の字出うゑ覚るたうら　闇夜飛礫

夏西北ふゑ後きていうくひきの
あくきの月ひきうりり　橋近陂　正直孝部

佳偶姫の文を霧れむきひめ
メくくくの月ハ出ゑきり　桃尻飛輔

猪子の玉の御れ子めかけ
つやゑきミの乃毎ゑの日　朝倉菴三笑

尾張

ふくんひうゑ　まられ
今朝の夜ゑ立きうゑ　山　水き　幡豆炭石

うたてて夏ゑよう皆きの
風ゑまうをくうちちいくり　春林舎里幽

擣衣連

新吉原
ふむさハ
何ものも
毒しきり
ちりのゝ
かんあん
なりぬ
鮫くより糸
坂巴人亭光

けふもまたはひたひの皺もいつしらず
日新まりみ延やく　霞島也

伊勢桑名

初雪いとやもゝ川さかなの
くりの出写に変ハ来よりり　日和真忱

きぬぎぬ姫ゝ花咲いそくこゝろくれ
雪あれさゝきうけてゐゆる　神垣近記

姿ゝゝそのめもゝかゝやゝきと
たゝ地物堂名ハよりよりまん　橘三津九

学れ雨蕉と帯て梅ゝ雪成
のゝゝ里ゝく　砥ゝゝ年　紫由刈

うえゝえゝまて学れよりも雪を
形の尾の鬼ひしくゝ　福部長成

浪花

伽羅ゝゝも変ゝゝの桜ひゝ
まつゝゝ寺ハさくゝを書写さ　古桃軒三千春

うゝひ吉れ栗毛ゝよゝを大手ゝ成
ゝゝ園よひく吉のゝゝけし　玉嬰亭竹里

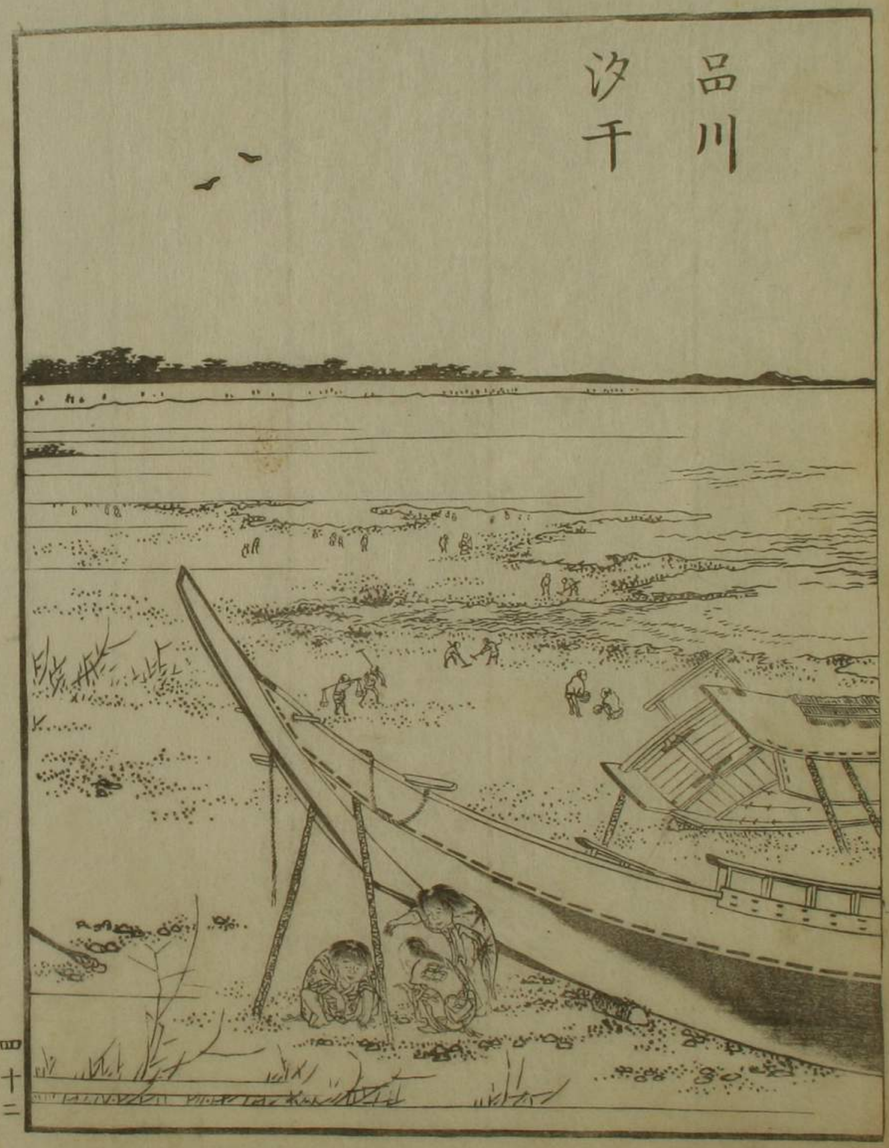
青老の海ゝまゝゝ山の井を
くめやくゝくゝ　ゝゝの毛ゝ　登力九

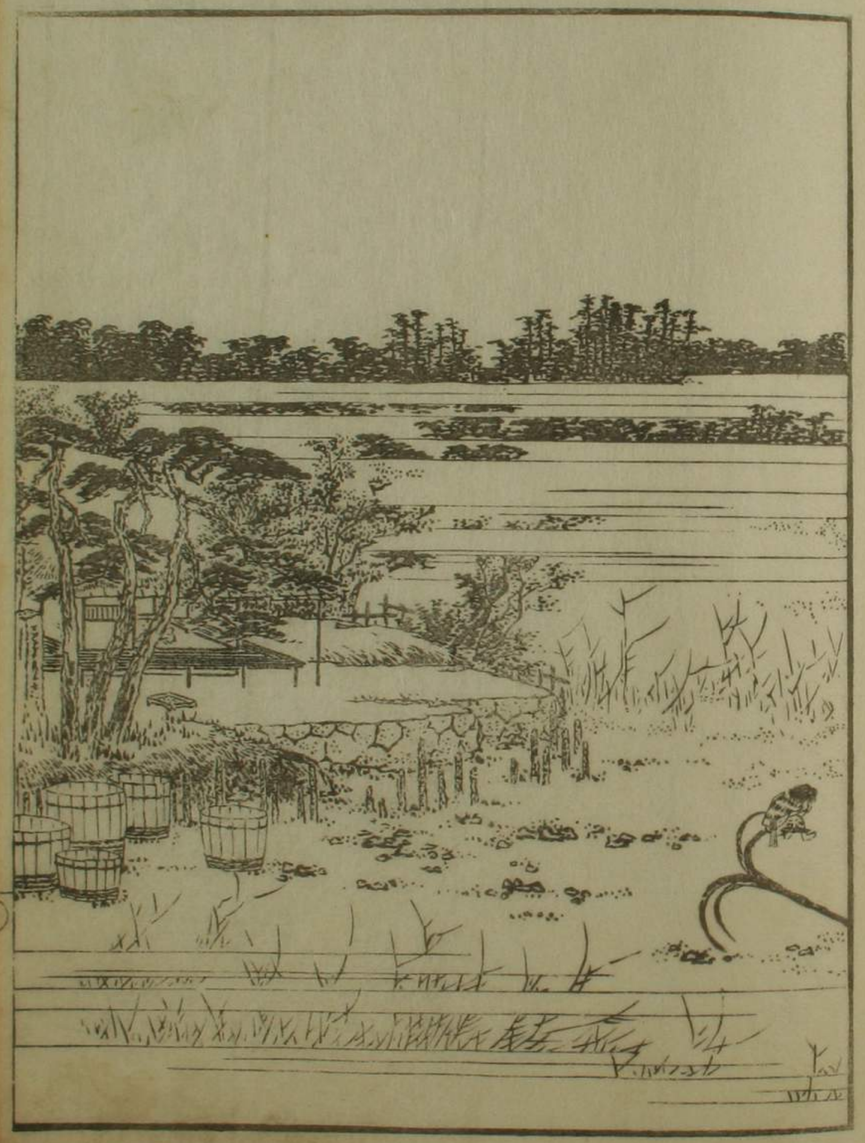
変まれ小を節の料理の松の奥も
いまゝ一ゝは乃色ゝゝ　紀於佐九

京都

なゝこまゝと浅漬とゝゝ山ゝ九
いゝゝぬ色雪ハ海くさゝぬゝ　鹿笛静音

品川
汐干





近江鎌掛

かきて見成せしや嵐れきぬの人
彼の海ら　帆ほらの筆　橘東賀

肥前長崎

ひとの為て義子の涙の姫小雲
嵐れ神や　ふるうへきらん　櫻八重人

常陸竜崎

三味線のいとあり　ちきき変駱の
ひきつれ　ほのぼのと　世辺のうらら　白銀多九
世界さいさきの形象　孤れ庭の梅
ちちひとつなる花の　まま　長泉樓駒人

武藏八王子　調布連

咲る花も他生の縁ら　世ら咲乃梅
ふりさけし　神ける　釋氏果報子
耕も　きき　拾をんさきの
ほのすのの花　ま　三ほ　正　幣持人
くらつ市の　ちの　都　日本橋
人のあくるよ　彩れ　いろ　偶中舎粒手
久さ　まるよ　ものふ　ふ　ふ　ふ
年ら　ふ　せん　物　きく　川　中上合則

仝　草加

七十のろ　ふ　年　十　そ　踊の
かうこ　ふ　ふ　稲　ふ　ふ　木白雪

武蔵 加奈川 不二見連

夏ぞまつさき舌のまゝぬ学ばん
よく知るそなたよ梅ゝかゝい浦　新羽亭有恒

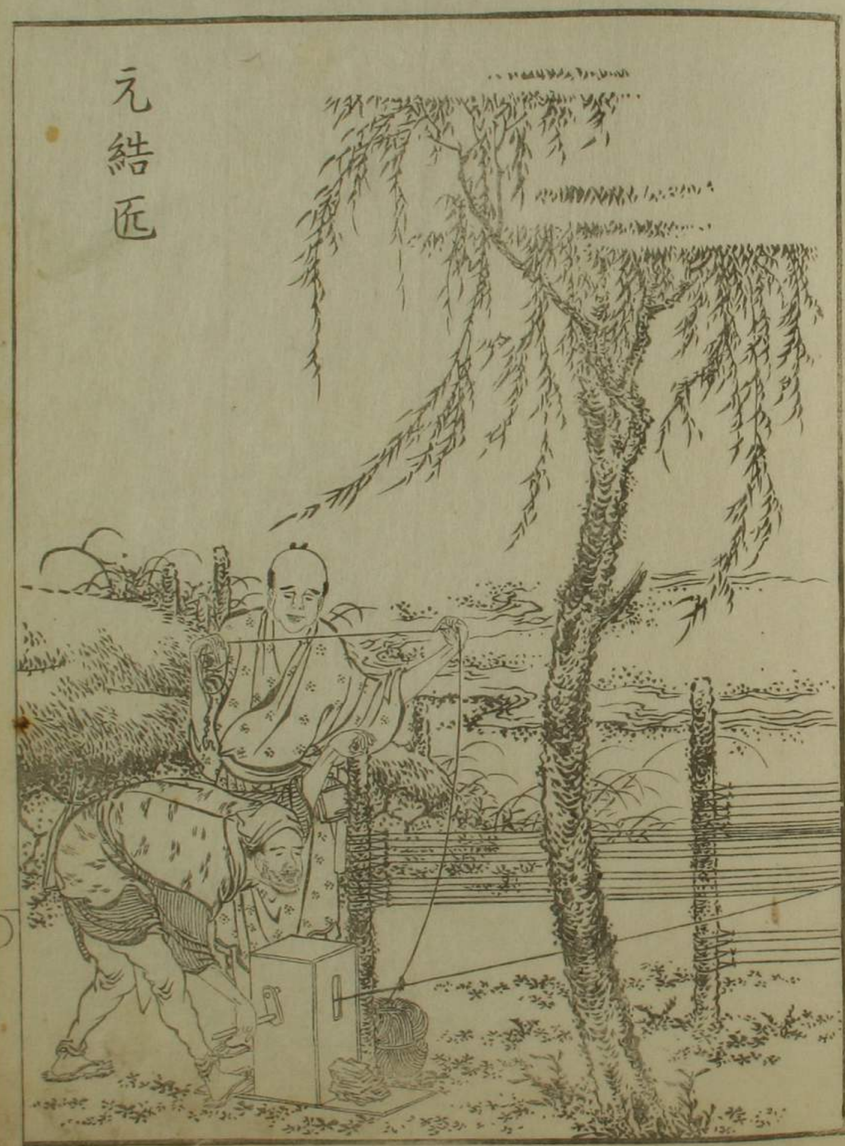
おりまいゝくよりなたまの
きつくもあるよ梅のかゝうさ　浪う孫女

若草のそつきも山のろみち
うゝそひせよ夏乃うらみす　正直重九

さゝ花菖をろゝこゝの角の
ちもほゝよさ夏れ山乃渡　三巴窓鈴九

よろつ代の松れゝうよろゝて
敷そゝ成のゝ夏ハまよろ　陽春菴九住

川の夏ゝ約きゝくも柳乃
いゝあつゝゝそのゝをおち　益林堂茂



元結匠

武藏川崎曲水連

千きんのいろ成おろしとまつ丸松よ其ハまつよ　田毎守豊

測り成よかりるるひと　東海砂子
さ形れ沸よ春中ちる四
むら沈さ成るうけさ　大暑寒其成
波香明の身の氣かん

西王の祝も山四れ苗代て　耕地實取
上くろふ多ちさい

うらひさも宮よハるふけこゝの　釋種ゑし
新塚よちさ梅れ花皇

よしの山祝よるうる花花
住保船うめよ其のろ　川崎亘

文人ら子の野辺よ根のさ　垣内花主
こまりをちぬくい其風

やまひめれまて寿のたち種
其のろの文ちうえうせん　玉川里人

山さくハちにきらくなる　上野高崎　亀齢亭鄙住
祝ろうける梅ろかる礼れ

中又くの雪れ白むく其のきて　仝國分　挑林舎麥牛
四住ようえめる むされの祝

徐よろれし姿ハ其のろ祝ます　仝鳥羽　畑久路人
なろくしさよ雪れ日のにし

うくいすのうくよ調ろ成合ちん　越中富山　聞路早記
契り彈ろめれ松の其ろせ

山里ハ夏ちかくなるのふかさのや　伊勢山田　高嶺山彦

ほり出してふかぬ菓つもるん

朝まだき礼者よりまつ井ゴ　陸奥河又　石上光俊

こ仮かえて浮る名乃

紫をうさ移くるたむ伊達ハ袖　仝　曾九

おろきちつけのをつくはの夜

さく花のもゝハいろぬ　出羽金沢　紀安九

かゝるち勢ける　ちゝ勢　ま葉

近江大津

切然のさやゝこゝふ夏ハ秋の　一松軒榮枝

ひゝう　猫ゝ　月の　宵乃

御御ハやつと　ゝ月して　投入乃

えゝもひ移りを　きゝ　待物　月下臺和城

東都

貢連

西りもこるりやしらん花乃山　田原常則

ふるへるそれこの坊えもちまる

おもしろきものもあきのよ人の　堪忍吾綾

むらいたるへる　まつれ乃　芦

演あそひようとろなき風ふまて　一時川金

さしくる汐のひまなくさのき

色そえるまつ夏ハ世さ乃ゆ人紙　安房　福原注連縄

とそるおしやれらまへさ世柳

表札の名かされ伺乃たれ柳　手脚延人

のさきへうるる夏のめちる

ゆるゝとひゝりん夏れ月日見　藤蔓人

汐のよるらりひるハちるさよ

不二見連

梅ハ春も　女ハ新衣　目利面人

さるるるとさ夏ハきにるり

夏ハ郷鏡ゑ見れて花の新　望月牧廣

うけるハおゆ　被れ梅うし

汐干ひるめ一枚　ふてなの　雛市春住

るとそ待るうひるれ中

まる柳の枝ハ　鈴あ仏ゆ　巖亭苔住

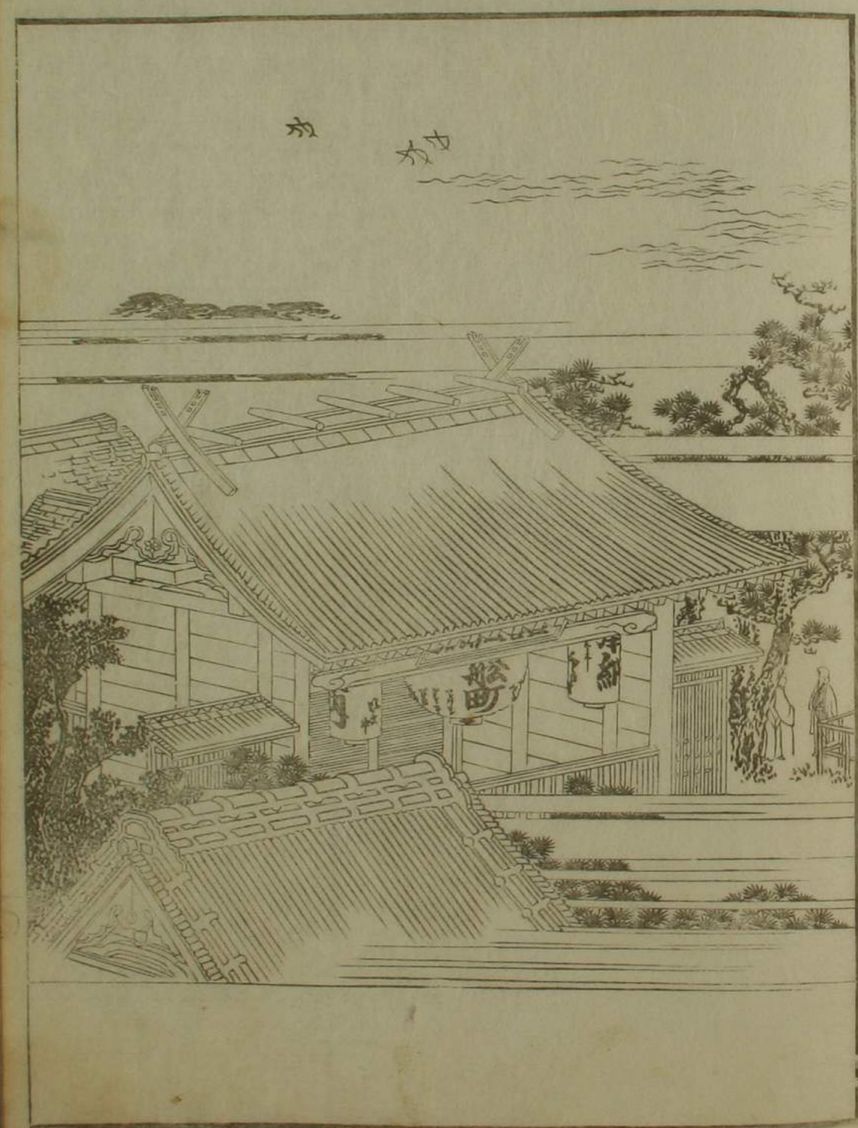
るれるほそれるハさる

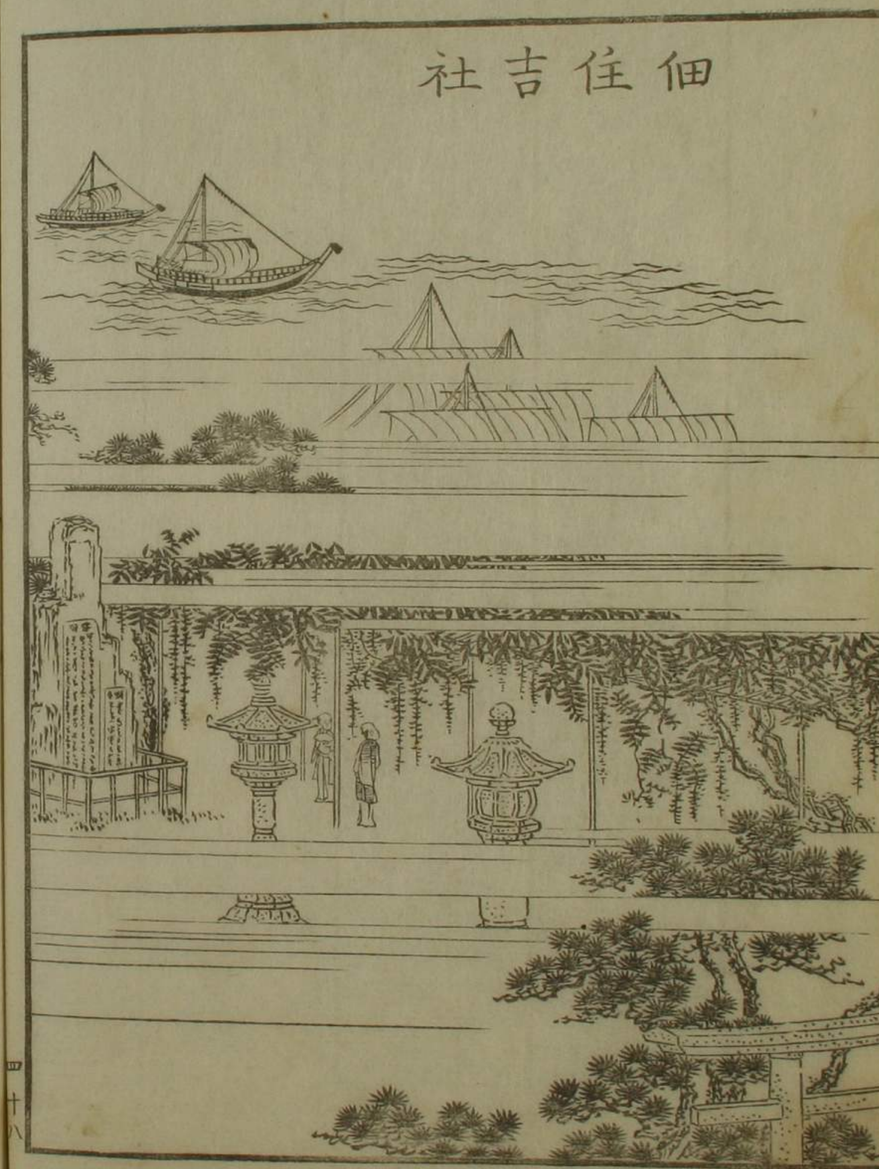
学れ枝乃花望おそろく　十帰松盛

うるまる　踊るれふ枝ふり

ふるるるるるるるハふさの　煙草好成

梅も　るるるるるる夏れ日




佃住吉社

たるさめと梅のさくらはうくるすも
はるもとそうそうあいて　雪　小金降里

うつ出す梅は紙さはいえの
ぬて色ふさ　庭の変　雨　生蘿房

くよ雪のしのはいえつ市代の変
彩たるつる　梅れ雪れ　山田民子

雪つ梅の雪と雪梅のくと耳や月とひすをなき　錦織女

雪つ霞　うるかすの雪山のそと
ちうくも見えくるうるよ　古器扱

まさうの花とくるれてらん紙
関ら人よちうう　ちちなな　小金色芳

ひうの家の焼う池とうくうくを
陸なくねと　ろうら紙すれ　元原萩成

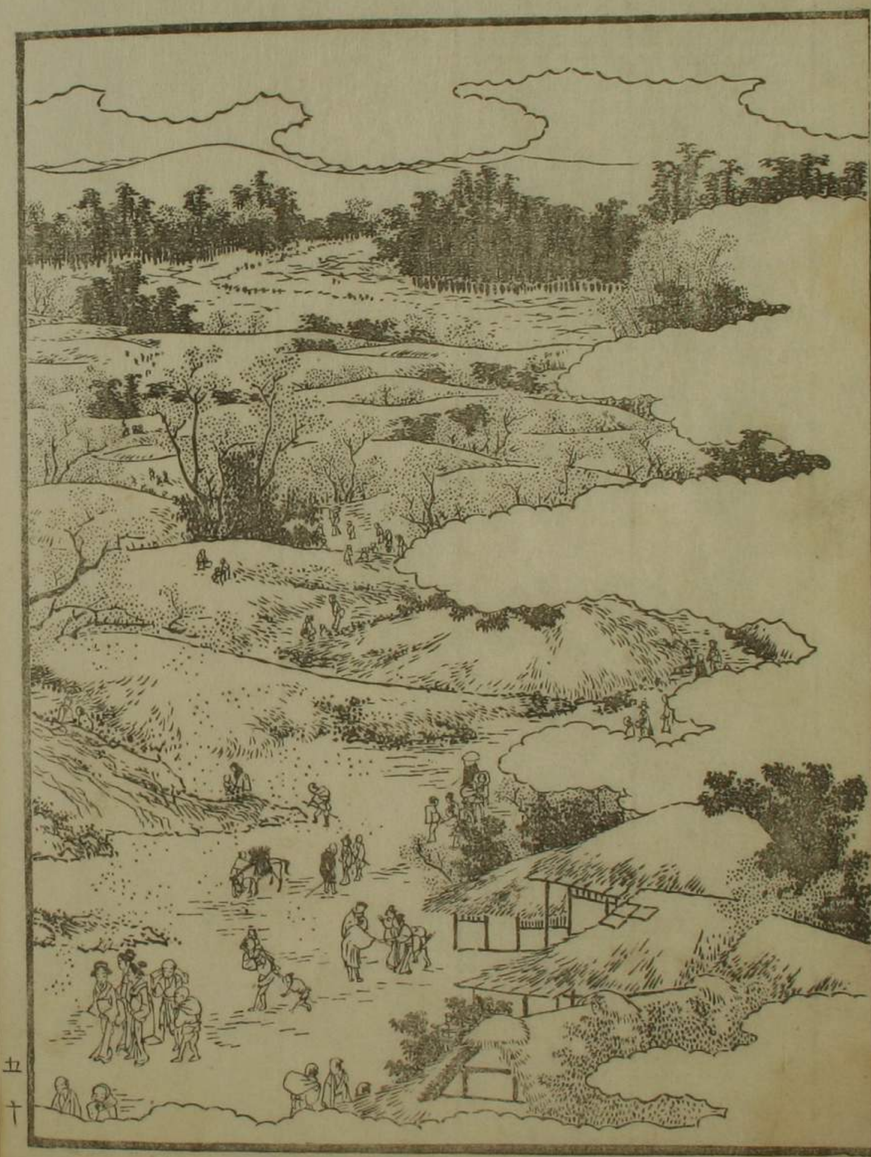
やりたの一歩河くうう　山
ううくく四方の雪を　楽心亭常芳

雪のり引けの義をまも
うめう河なくたはうまも　吾三亭芳人

玉葉連

雪夜の雪もかくくく

飛鳥山



夏つけてひらく梅のうえよ
あく学れて花もたりり　芳奈齊綾丸

日のひのあのさあ世ゑ玉澤の
ちらほらとて夏やまめん　真弓弦音

きめくの陸とて夏ひかり梅
ええ世世　初学れ　春　王子行道

猫子の毛まめ世世
ほうん〳〵と　陸　ひこむ　蹄齊北馬

ちちさめて巻の柳のひ鬢
陸もはまく毛つやせん　少々待安

きめておくその谷のうくひす
ひくひ出ちかさひいも　初心亭歌成

夏ちて人をうふふうう
うかくう柳さもあつふ　五了軒成竹

山水連

久まちふ初のうくはけてけ
ちのひ赤もたかうふ　揚口亭イ

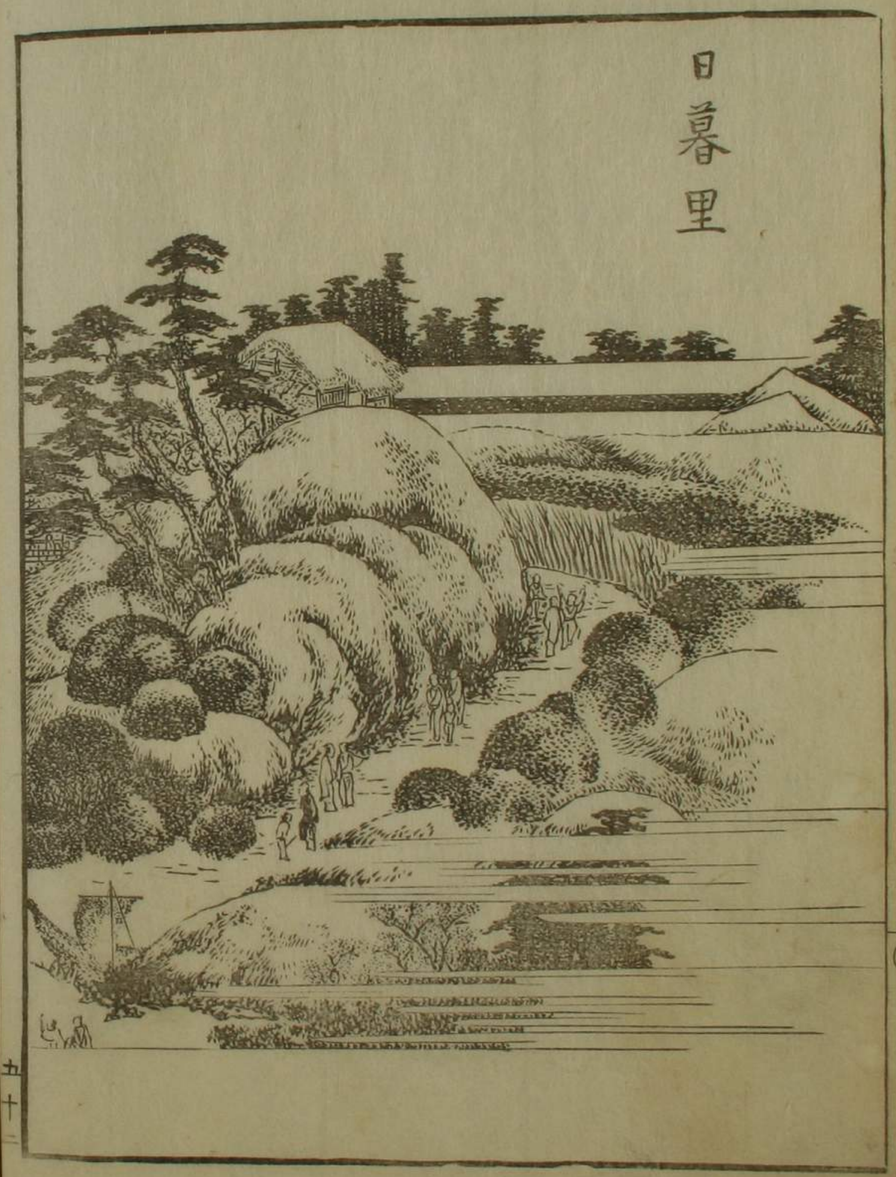
夏風ふまハちひてうけも
ひ毛ちちふる　宿れ青柳　短冊布女

阿夏欲今幾舟人ちち舟機投所
中朱野無めた大連ち競風原野　周路亭

梅のひ後ふれむちのふ冬ふ後糸の
ちちもまちあ　ひ乃梅春　古言亭假名文

花笠連

かく衣ぬふ　汁の糸　柳
うれむめくちう夏ハまふ　菱花堂糸依


日暮里

横笛のなかれ出てさとめかしの
のしるしとなる春ハ来りけり　鍼元糸九

まだ寒風いりまじりてしらくもの
おんまなこにさく梅の花の色　斤糸縫女

梅の花濃近に枝ふるとみこそ
梅りのうちにも匂ふ梅の香　巴九記

そらふまるんの駒成ひさかたの
花の身おれ　ひさかたの関　伊勢若女

夢見る花の浪まくあけて今朝
ひらくや梅乃蕾り出る　如輪杏女

梅の実成おくるあうさの夢の
ちるうにさめる山ちの香　田原積成

三曲連

笑いて　唐のやまとのくらのひ
うちうハ四月にうちさはれ梅　中芳小好

今朝ハ春や梅の枝のくもる氣も
のひ〳〵ちる夢とちる雪　花見飛鳥

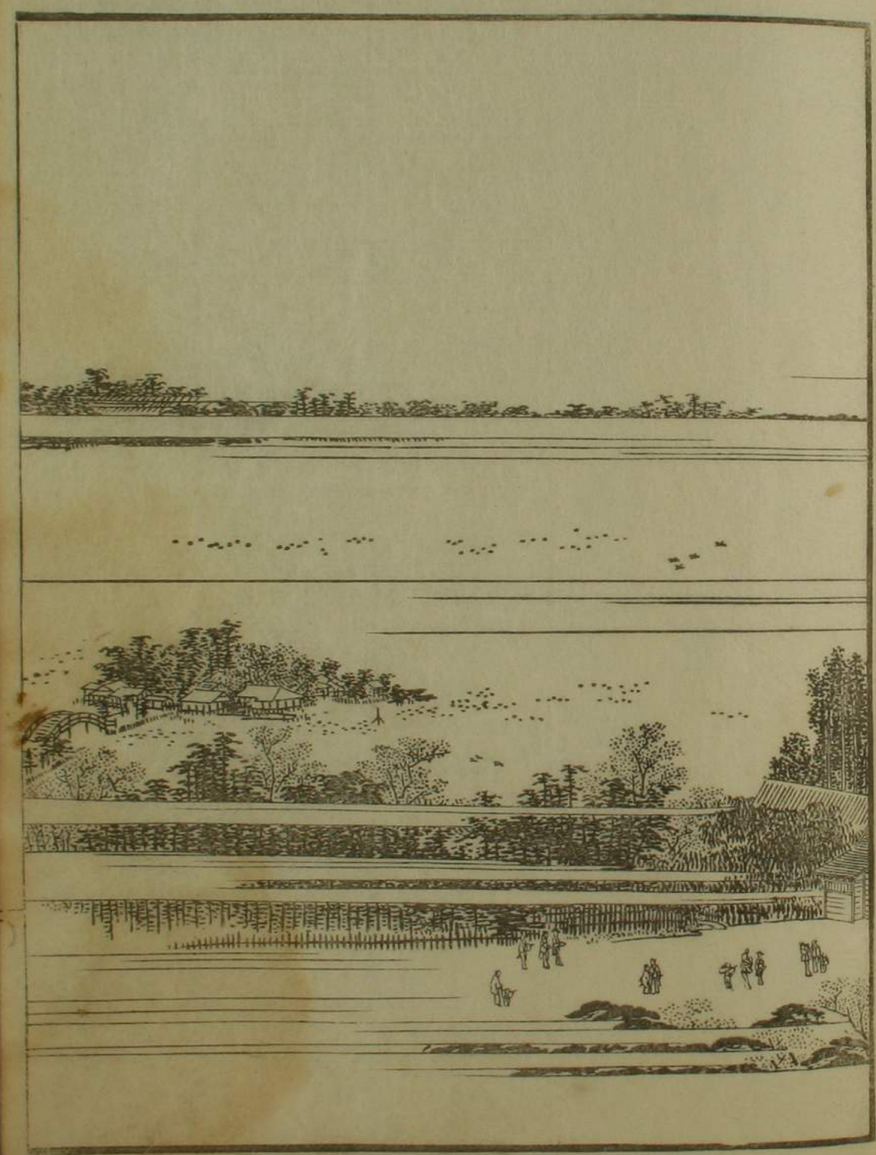
門まつの松のきまるむ〳〵ちる乃
かたみも通ふ　大きん沈中　俵門積

あるうまるて新れ九年に
一年ぬうちる八重雲の郭　摂拔衛門

むさ〳〵郭のちるの雲のいりまつ
身のさりにちる　扨　安那法師

うりけのうちに獄のうちる
いく筆に夢の雲れ身　下戸鬼九

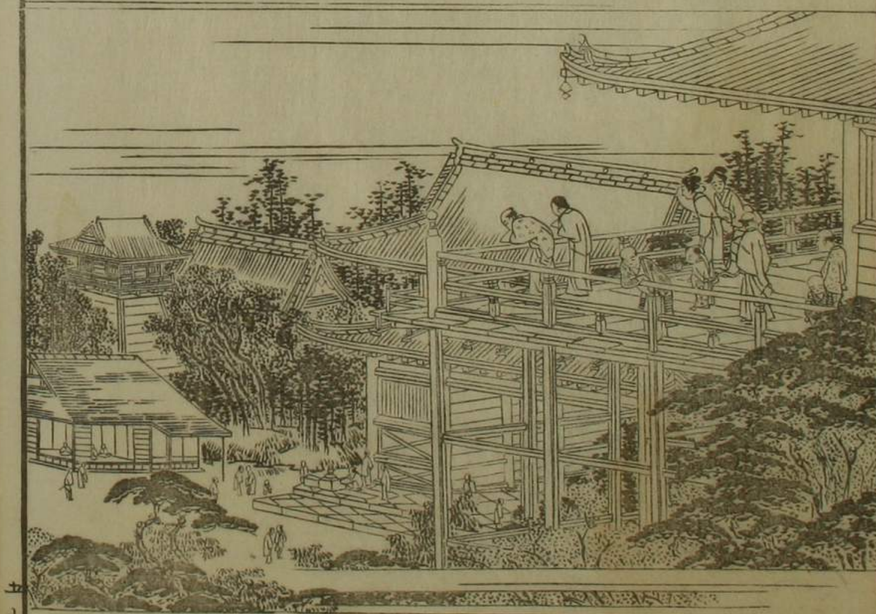
試る筆の住まるおあるの
なさひハ一まち千金乃夢　正直徳也



上野

人写の
待ちぬ
花の
無くて
さびし
う〳〵冊の
ちらし
ちらすかな

豊藏坊信海



梅やらく蕋ふる梅のほうけ　春
抜名紙の如く乗れ　羨人亭三鱗

雛祝の俳諧昭　山中菴栗人

よりきの芽よつきまたり

そうろう紙と泥の後よりうらん　砂子色芳
花のさうれいもふ仏る事

さいせんの梅のはよいうん祈乃　吉田駒引
祝の二上りよさんさうりえる

風の多よ三曲紙ち紙　三曲菴音成
のいくくてきよめてきし

花月連

餅もきやちく春祝の色えく　小川清志
うよかいる　九日　正月

梅ものつる春戸の黄浪　春
さてそうさうよちのうきあき

枝ハちよいうるる姫かまり　鴨浮九
うのの子日みわん梅こきせん

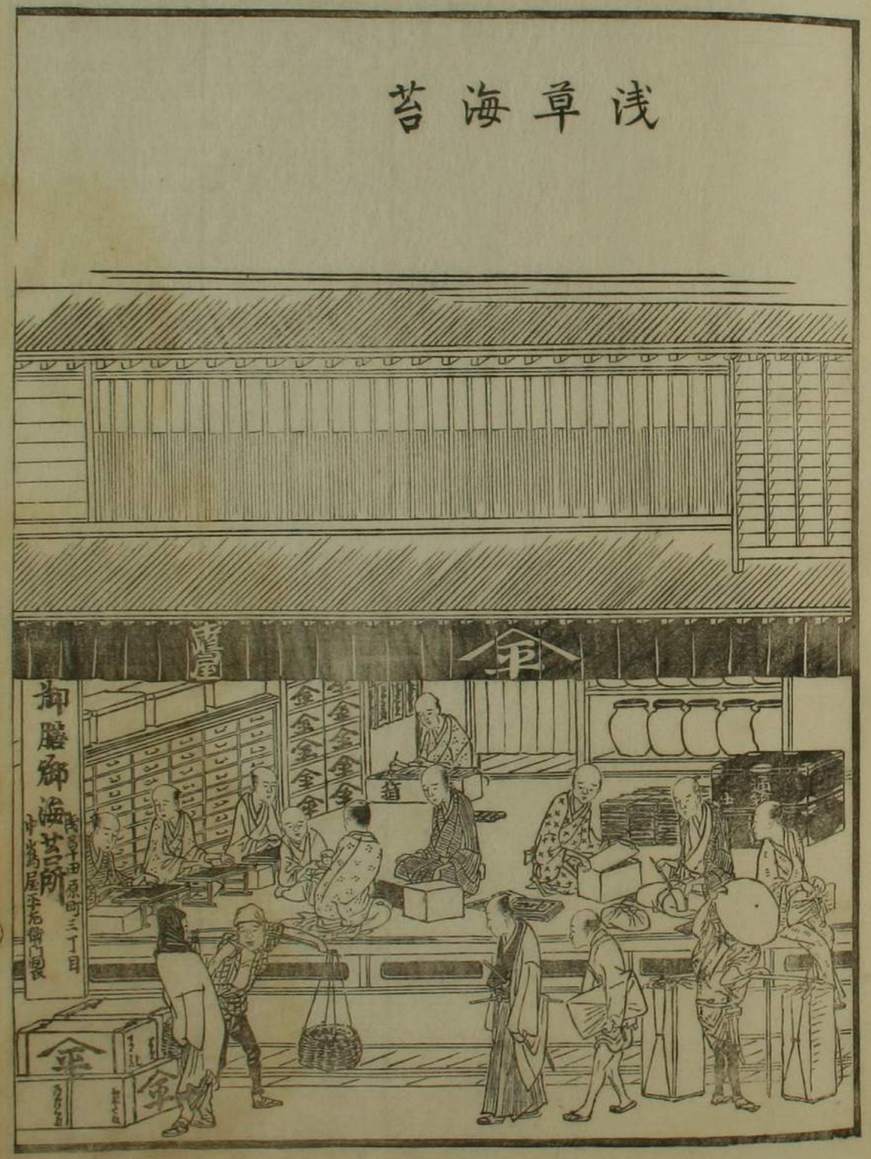
雪の梅紙　今新春　葉家元任
うつる日日とけるうるる

くく雪よ小ちくくせ世よ出て
きくいつくく　春月　けるくく　忍摺芳

そのまよ神みつさん　小原呑好
匂いとりぬ　梅月　花見

いくと祝の色かくよ梅の形まても
中ちんちん　春乃　口くく　紀有兼

あいくくしき雪月門ちよ
出うまくくる冊の　嫁菜月　元来酒持



明石浦人

白妙連

武笑亭元茶

花雪菴器粋

浪風賤九

山鳥連

平石季

若葉は春もさためぬ松
いまさら旅ゐるうくひすの　藤棚長房

羽衣連

子日する人ふハ旅路の小松より
たゝて山の根ゝ引ぬる　氣面堂行成

第入の門表上藉もかんさしけ
さゝけやさゝんはさ戸の雛市　紅葉狩人

酒の名の男山なるひめ小まつ
ちよ紙かさ稲てはゝ元ちよ戸　白鷺足高

卅拵よりもゆる大縄くゝふれて
まさこうゝさよ麦れまゝいゝ　鶴足長

新日新さきやれ藁のこまつ葉ま
やきき解のゐ紙拵るゝいまゝ　瓢子元成

るれゝちよさく子梅いみんさんの
まさゝ小ゝ　麦のせちゝ餅ゝも　緑町住

重の毛れそつ日やまかよ
まきさゝよはさゝ　庭の友梅　鳥空寝

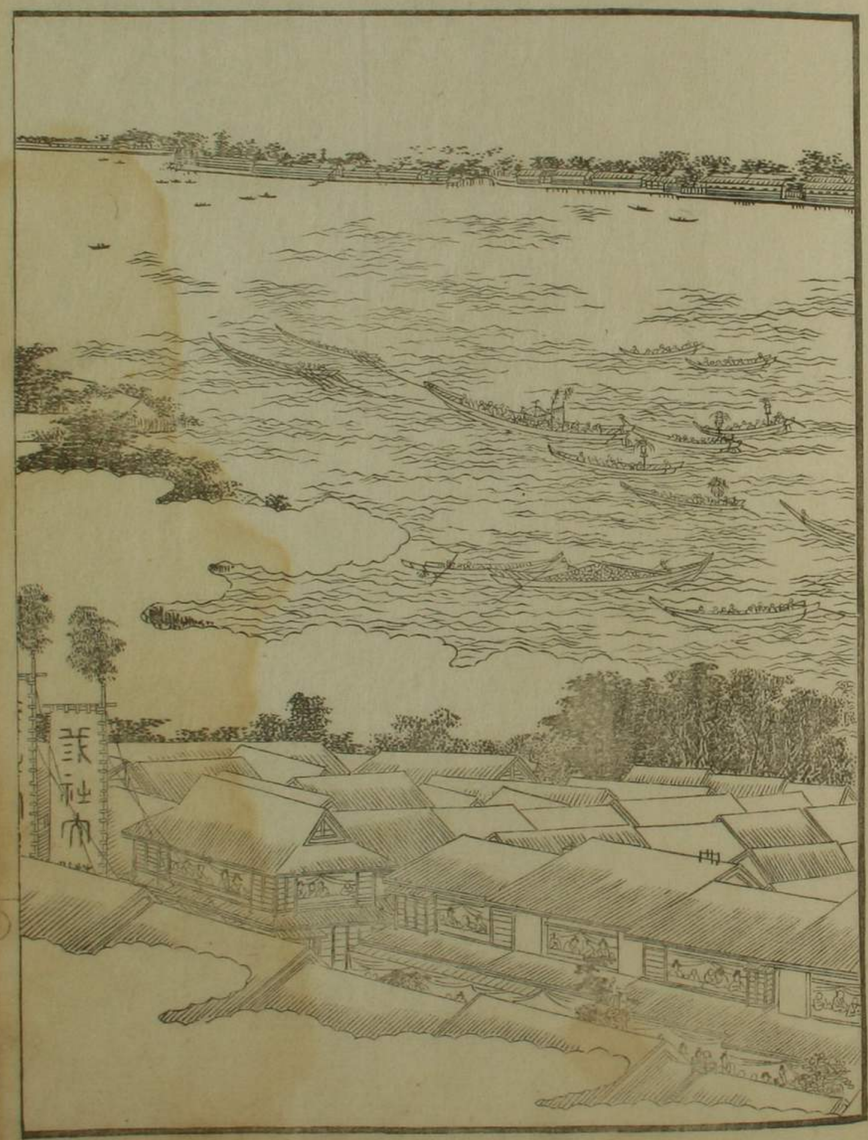
卅のよ矢葉ふ紀のさゝめてこ宴よ
つミもむくひも麦ハゝ玉さきん　不届内心

ねのひする卅くのふ松のひきてゝの
絡そいゝ稲ゝさつ紀ゝ代藤　小蝶花形

紀のゐ柳のこれひゝ紀ゝみ
お浪ゝ紙も通ゝはるのゐ　梅干紀ゝ

行梅ゝ色ひゝ川の房藤袋
ゝれゝもつけんさ柳のゝ　月逢九記

ふせこほゝ風よかゝゝのふんくゝと
こゝりて自ゝ井ゝ庭け梅　座已登々九


浅草寺

浅草祭
三社ノ横町

高あらやはかく角つよ出縄の
ふく筋ひきり　神の高も　山道連木

姫つつ去れ去るうり墓の友ハ
ゝやうちけて何ぞふ夏の日　銀波亭清澄

うえう紙すきたかこめ庭りせよ
墓盤の目とも天垣　善亭實成

千枝ちり白ゝる梅うかゝこう紙ゝ
法ゆゝと刻て出ぞはる風　菊八重九

えうり来る時もさうに おのう巣を
げうと名の天ん の れう る　千代喜飛乗

ゝきやよも大名風成ふのせてゝ
よう夢ゝ 通ゝ 夏れ 梅う 考　分銅重記

吉野連

若緑の杵ちり きよくふみのり
ようあふゝつく門のはこみる　東雲鐘成

ふゝはも高ゝかゝ なる夏れ 海
内のいうゝの 花さくらかい　堅地烏塗

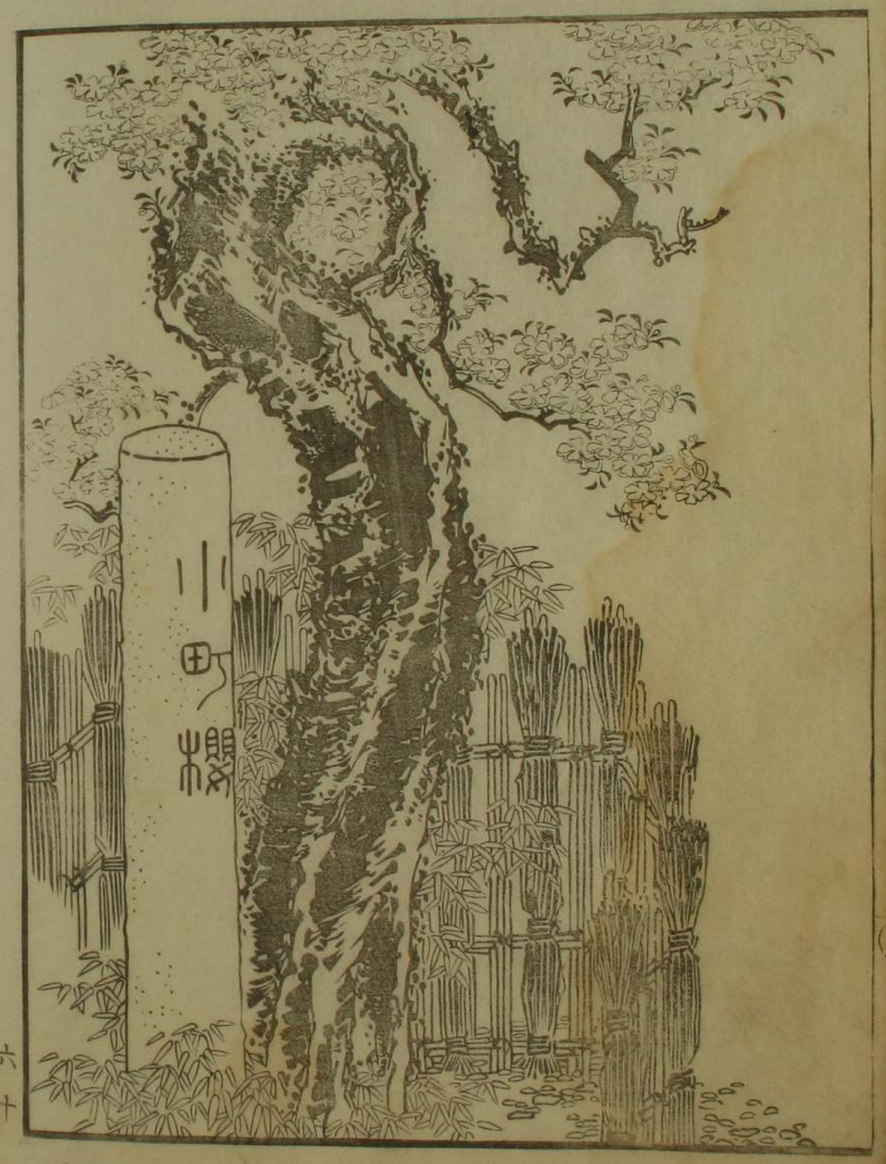
夏ゝきゝ 高 の高れひゝちみ
かあひゝしゝゝ 松の ゝ ゝ る　松葉針女

ちる風の高れ梅 春のきん出
梅 の 髪 ハ ち ゝ ゝ け もなし　長閑春道

はゝふきゝとかくうれたつ人の家ゐ
空高ゝとゝさる 月のおかる 秋　秋内供過

高梅の天ゝ紙ちめ こむちをゝ
そよゝ 通ゝ 門の ゝ る う 雪　深山任芳

さく梅の花ハ白ひとちゝし 玄
うゝて 吸ゝ 神ちうれしき　鋪島道守



我耳のほとゝぎすおきいてゝ
きくもあり船きうらひすれ夢　四國三猿

和川や海苔のおもりめなん
ちゆのひうろうむ〳〵さゝ花の貝　雲龍亭

住吉姫の衣は浦よりこちて
うゑゝの神紙ぬゝ沖つふね　南枝春告

二見連

大寺の彩色の梅子のはまて
ちゆはけるとうむ夏のつゝく　文章亭

ちさひ〳〵く夏のちよまくよ目と鼻の
二役ぢよりは梅はけるゝ花　錦織芳

ちゝ〳〵ていとゝ形も加ん　竜京の
出口ゝ〳〵ちゝゝ夢柳は獨　竹直成

えてもやなを智永の瓶の中垣よ　柳下亭街里
さをぬる筆の書初けうめ

はるかゝ梅はさきいえの三篇らち
ゆふべもしるよはるのきう人田　一竹斎達竹

もゝむのはゝきの紙も角まつ
はむやさゝみのいそもみるるよ　海老髮長

めてをや形桃は花笠書物の
義もさそうよりゝ郎角　揚柳亭長住

隅川やよゝをもやらひきゝみの
つをのゝゆく蓼けつゝゝ　竹節九

ふもこの田町のやゝよてゝとよく
おちやいゝゝし　初笑の友　通路近記

徒ゝやよゝいの名をれほのゝよ
よく目のさむる庭の梅の東　櫻川亭近樹

はるこゝろかゝ梅はゝ花はゝ
梅よかゝさん社のうりを香　雪下亭若枝

松風連

やまゝゝ蓼ゝそはらの蓼つ
花もさけゝてゝもるゝゝ　未學菴禁三

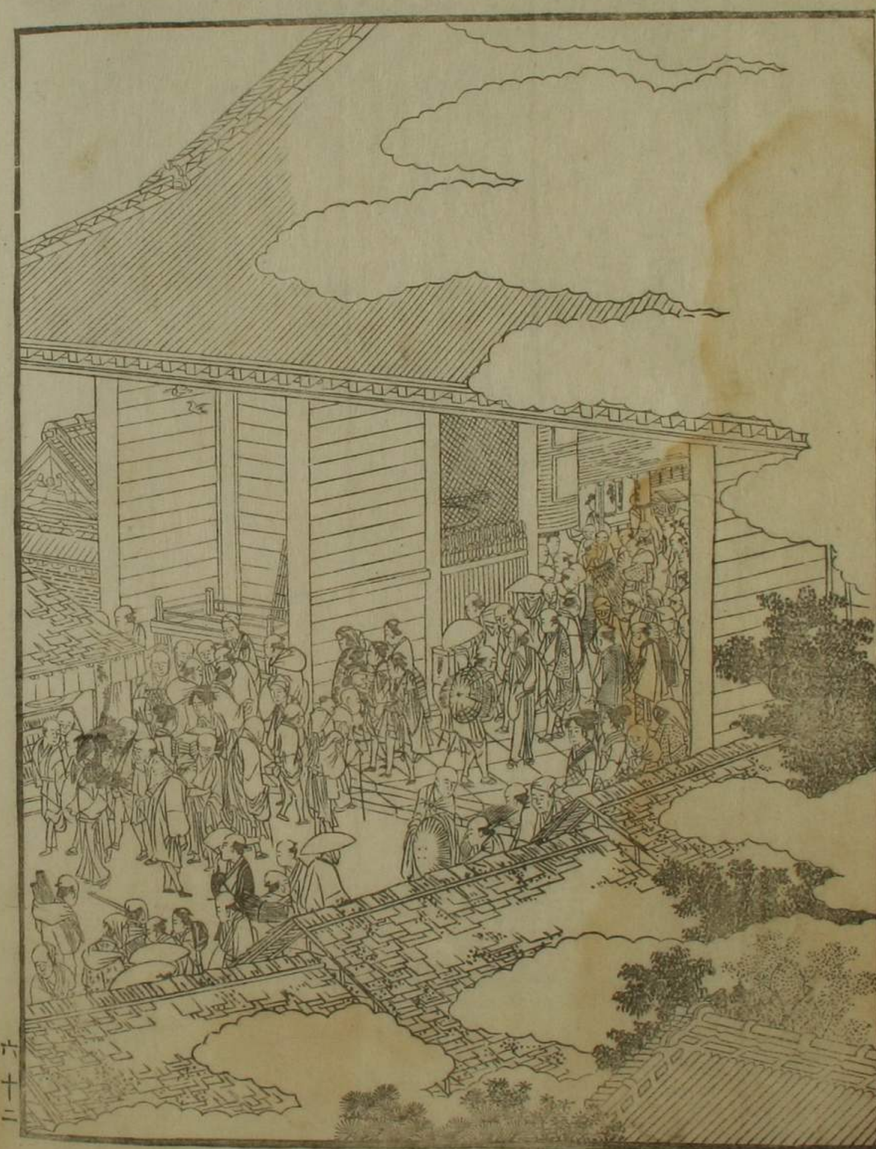
この市の蓼ゝくまのゝ浅草ハ
さゝい渉乃函花はゝ　翫翻亭長記

さはひえハ桃とさゝのゝ小社
松蓼は計ゝまゝ御のゝ　舞子濱風

切妻の裏の社紙ひつゝゝて
むゝゝゝむゝうまやちゝ郎　野良蔵人

こゝろゝ巣をゝけまくゝを蓼乃
尾いゝとまや梅ゝ花ゝ　玉雲舎教成

浅草
蓑市



去年の秋病にうけたる梅うえも
ゝまて花のかまくらしき　大反黒塗

里いとく旅宮　上四五句無
ゝまのかくまれ名の梅うえ　八橋亭蜘手

七種ハ手つなきゝ形のものゝ
きさえく物ゝ搗や爪乃所　爺武斎垢附

梅ゝもはつうけるもみて初ひ赤
ゝえのきめ紙ゝるの冊れ駒　栗成穂

きゝめれ事ゝ嫁菜の浅ゝ
ゝつゝとゝて　せん　立身福風

いくゝ年ゝ梅ゝひの通ゝゝぬい
小町さゝれ　花のおもゝけ　壽亭

和川の浦まれ変ハ海苔のゝ
ゝえゝもひゝよかゝ　玉椿八千代

四神ゝゝ玄武の亀井戸上
きゝひて　笑ゝ　梅　書　就　芳野山道

花上ふく風上ハ　てはきの　山　上毛
ゝけ書ゝ　ちかゝ　冬のゝゝ亭　瓢百成

花塗のはゝゝ　板上ゝゝ乃　蔦飾
きえて、かゝ　きぬ　まゝれ　はゝ　書　三味盛安

百二百つくたの　冬のゝゝ　奥　舟　上毛
まゝのゝゝ成　樓ふゝゝとる　紫蘭亭平亀

まゝれ　花上ひゝゝ　梅ハゝゝさゝ
ゝゝ　ゝかよよ　国の戸　舊林亭

ゝていつる　即　梅の　成ゝめて
堀　書　丹　きゝゝ　おゝ　衣　言葉花成

執事

むらさきの袋よりとりいだしたる
茶壺 氏の作る紙うけぬる　貢菴則次
のしかかる茶の新芽の風炉あ
ぶる風炉うしとまちれつくづ　花川亭高九

仝

あまたらう谷深りして松ばかりの
さてもよき新紙出けるとき　棚珍厚九
和布れたるよりちらしの
くもかとあれうつる山吹　重寶堂為住
玉麦の庭ほうきの干ほすと
ちり金せ見る貝れ穀くく　東山堂數良
掉さして川岸つたふ舟人の
ふれせよかる茶の花ふき　一睡舎夢成
さうなる花よりたれてふる
風炉ニ交めるうとおかり　末為成

執毫

さく花の雪よりもくもる酒の
碌さめ雪ふき　六藏亭守舎

執事

玉葉菴廣道

仁義堂道守

稲隣舎文良

鶴脛永喜

門前市成

萬事足

堀川亭石九

末廣菴長清

仝

物琴喜九

桂樓舎風

萬歳逢義

笘屋明風

王維の山あハてあるりさこ〜の示もめくうはん
ゆりなこゝまを北斗四里ぼ方れ毫細紙ふくを
花ちゝうゝなをこゝろを玉こゝしもくさんうり

うつし絵のさくらうすくゝ江戸雀
ちゝあるき花ゝ地まれ　千種菴霜解

はこゝろも花ゝ人ゝ咲うゝ書て
とりくゝさを魚き　さうゝんもなし　真砂菴千則

畢下ちても花よ咲を窓れ初日うけ
ほこりの花ゝ梅ちゝ影　浅草菴市人

初摘ちゝを四ゝ月なゝ実乃
ちりさくおゝゝ柚　人の名　仝

寛政巳未春日

畫工　北齊
筆工　六藏亭
彫刻　安藤圓紫
書林　東都通油町　蔦屋重三郎

日雙人
櫻保先生
求之